

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.89

長野県特別版



2021 年 5 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目 次

○ 厳況を耐えて楽しい未来を・・・・・・・・・・・・・	副会長 小澤 正博・・・	2
○ 東京オリンピック予選ラウンド組み合わせ・・・・・・・・・・・・・		3
日本は 男子 スペイン・女子 USA と同一グループ		
○ 第96回天皇杯 2次・3次ラウンド結果・・・・・・・・・・・・・		4
3月開催のファイナルラウンドへ		
○ 第87回皇后杯 ファイナルラウンド結果・・・・・・・・・・・・・		6
ENEOSサンフラワーズの8年連覇優勝		
○ SoftBank ウィンターカップ2020の結果・・・・・・・・・・・・・		8
優勝：女子 桜花学園・男子 仙台大附属明成		
○ 【先人の軌跡】 牧山 圭秀 さん・・・・・・・・・・・・・	歴史部・・・	13
生涯を、日本バスケットボールの強化と普及に尽くした		
○ シニアチーム紹介 セブンブラザーズ（旧7帝大OB）・・・・・・・・・・	普及部・・・	17
○ Bリーグにスポーツくじ導入・・・・・・・・・・・・・	普及部・・・	19
○ 会員だより		
☆ 甲南クラブの想いで・・・・・・・・・・・・・	山本 誠・・・	21
☆ ACTIVEHOOP・・・・・・・・・・・・・	高橋 旭・・・	23
バスケが大好きな人の味方		
○ 高校籠球ふるさと記（長野県編）・・・・・・・・・・・・・	事務局・・・	26
○ 事務局だより・・・・・・・・・・・・・	事務局・・・	36
○ プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・		37

厳況を耐えて楽しい未来を

副会長 小澤 正博



新型コロナの感染が始まってから約1年以上経過しましたが、感染者動向は決して良いとは言えず、非常事態宣言もあって会員の皆さんにおかれましては、ご苦勞の絶えない日常をお過ごしのことと存じます。

多かれ少なかれ若い頃からバスケットボールに取り組まれてきた会員の皆さんは、それなりに健康維持をされておられると思いますので、このコロナ禍の最中でも鍛えられた体を持て余しての毎日ではないでしょうか。

コロナ禍の影響で振興会活動も制約、自粛を余儀なくされ、今年度は殆どの行事を中止せざるを得ませんでしたことも大変残念に思います。

しかしコロナ禍を収束させるためのワクチンも、まもなく接種が始まりそうですし、厳しい悪環境にもようやく光明が見えてきたように感じます。

延期されていた東京2020オリンピック大会バスケットボール競技も、予選リーグの組み合わせが決まり、47年ぶりに出場権を得た男子についても、世界の強豪チームに対してどこまで勝てるのか楽しみですし、女子についても超強豪とも云えるアメリカに対して、どんな戦いぶりを示すのか注目したいところです。

男子では、日本代表チームにNBAで活躍中の八村選手や渡辺選手が加わるでしょうし、女子はメダルを取ることを目標にしている状況で予選突破に期待がもてます。

これまで世界に羽ばたけず、国内でもあまりメディアに取り上げられないなど忸怩たる思いで見守ってきた日本バスケットも、Bリーグの発展と女子の国際的活躍によって、その位置づけが変わり、多くのメディアに取り上げられるようになり、皆さんの目に触れる機会も増えてきたのではないのでしょうか。

Bリーグにおいては、日本選手の3ポイントシュートのタイミングと確率が上昇しているようですし、女子においても同様なことと、ワンハンドでミドルシュートを成功させる選手も数多く見られるようになり、これからが楽しみです。

2021年度はコロナ禍も収束すると思われますし、振興会においてもこれまで以上の活動を推し進めるべく理事長を中心として企画を練り始めています。

この1年間活動ができなかったことにつきまして、会員の皆さんに対しまして深くお詫び申し上げますとともに、これからの諸活動にご期待をいただければと存じます。

会員同士の交流やシニアバスケットを通じての交流などは、バスケットマンとして大いなる触れ合いの一つであり、復活する振興会活動に更なるご協力を賜りたく存じます。

末筆となりましたが、会員の皆さんにおかれましては、充分すぎるほどコロナにご注意され健康に留意されてお過ごしくださいますことを祈念申し上げます。

以上

東京 2020 オリンピック予選ラウンドの組み合わせ

日本は 男子 スペイン・女子 U S A と同一グループ

[編集部]

東京 2020 オリンピック競技大会予選ラウンドの組み合わせが 2 月 2 日に発表された。

男子・女子共に出場の 12 チームが A ～ C の 3 グループに分けられ、各グループ上位 2 チームの合計 6 チームと各グループ 3 位から選ばれる上位 2 チームとがベスト 8 となり、準々決勝戦から準決勝戦、決勝戦へと進む。

日本代表は、グループ C で 2 チームを破ってベスト 6 に入るか、各グループの 3 位でも上位成績でベスト 8 に入って決勝トーナメントで闘ってほしい。応援しましょう。

男子組み合わせ（開催：7 月 25 日～8 月 1 日）（O Q T：オリンピック世界最終予選）

グループ A	イラン	フランス	U S A	O Q T の勝者
	23	6	1	カナダでの
グループ B	オーストラリア	O Q T の勝者	O Q T の勝者	ナイジェリア
	3	クロアチアでの	セルビアでの	22
グループ C	アルゼンチン	日本	スペイン	O Q T の勝者
	4	41	2	リトアニアでの

下段数字は2020.12.09.の世界ランク

日本の対戦相手となるリトアニアでの O Q T 組み合わせ

グループ A	リトアニア	韓国	ベネズエラ
	8	30	20
グループ B	ポーランド	スロベニア	アンゴラ
	13	16	32

下段数字は2020.12.09.の世界ランク

O Q T は、6 月 29 日～7 月 4 日に 4 箇所で開催される。各箇所からは、グループ A 1 位とグループ B 2 位、グループ B 1 位とグループ A 2 位、それぞれの対戦からトーナメントでの勝者 1 チームが決まり、オリンピックへの上記組み合わせに参加できる。

女子組み合わせ（開催：7 月 26 日～8 月 2 日）

グループ A	韓国	セルビア	カナダ	スペイン
	19	8	4	3
グループ B	ナイジェリア	日本	フランス	U S A
	14	10	5	1
グループ C	オーストラリア	プエルトリコ	中国	ベルギー
	2	22	9	6

下段数字は2020.12.08.の世界ランク

第 96 回天皇杯 2 次・3 次ラウンド結果

ファイナルラウンドへ

[編集部]

今年度開催の「第 96 回天皇杯 全日本バスケットボール選手権大会」は、昨今の新型コロナウイルス感染症感染の全国的拡大状況等を鑑み、今年度に限り、大会方式を一部変更(規模縮小)することを決定し、実施された。

なお、ファイナルラウンドは皇后杯決勝が昨年 12 月に終わっているが、天皇杯決勝が来る 3 月を予定しているので、天皇杯について、皇后杯とは別に報告することとした。

天皇杯の出場チームは前号に報告されている 11 月 28 日(土)～11 月 29 日(日)に開催の 1 次ラウンド(1～2 回戦)勝敗結果を参照されたい。

1 次ラウンド

特筆されるひとつは、岡山県のトラフープ岡山サテライトが 2 回戦で 94 - 88 と B 3 の豊田合成スコーピオンズに勝利したことであろう。次の 2 次ラウンド 3 回戦で B 1 の大阪エベッサに挑戦したが、ディフェンスの差があって 66-88 で大敗した。

一方、福岡県の福岡第一高等学校は、1 回戦で京都府の京都産業大学にブザービーターを決めて 86 - 84 と劇的な逆転勝利を決めたが、2 回戦で 81 - 88 と B 3 のアイシン AW アレイオンズ安城に苦杯を喫した。また、茨城県の日立金属ブルドッグスが 80 - 82 と B 3 の東京エクセレンスに善戦している。

2 次ラウンド

2 次ラウンド 3 回戦からは B 1 チームが参戦したためか、番狂わせはなくそれぞれ B 1 クラブが勝ち進み、4 回戦は B 1 クラブ同士の対戦となった。

3 次ラウンド

3 次ラウンド 4 回戦では B 1 クラブ同士の対戦となり各ゲームとも熱戦となったが、そのうち 2 試合が関東地区チーム同士の対戦で接戦を演じている。

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
アルバルク東京	13	25	12	24	74
サンロッカーズ渋谷	19	21	14	19	73

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
川崎ブレイブサンダース	19	16	17	20	72
千葉ジェッツ	21	14	20	7	62

アルバルク東京(以後 A 東京)対昨年優勝のサンロッカーズ渋谷(以後 S R 渋谷)戦はお互いに譲らず、第 3 クォーターを終えて 50-54 で、S R 渋谷がわずかにリード。その後第 4 クォーターでは文字通り一進一退で勝負はわからなくなり、残り 1 分を切っても 1 点差のデッドヒートが続いた。

S R渋谷の#34 ライオンが、残り 6 秒で 3 Pを決めて 73-72 としたときにはS R渋谷の勝ちかと思われたが、残り 1 秒にA東京の#24 田中がミドルジャンプシュートを決めて逆転ゲームセット。A東京が競り合いに終止符を打った。

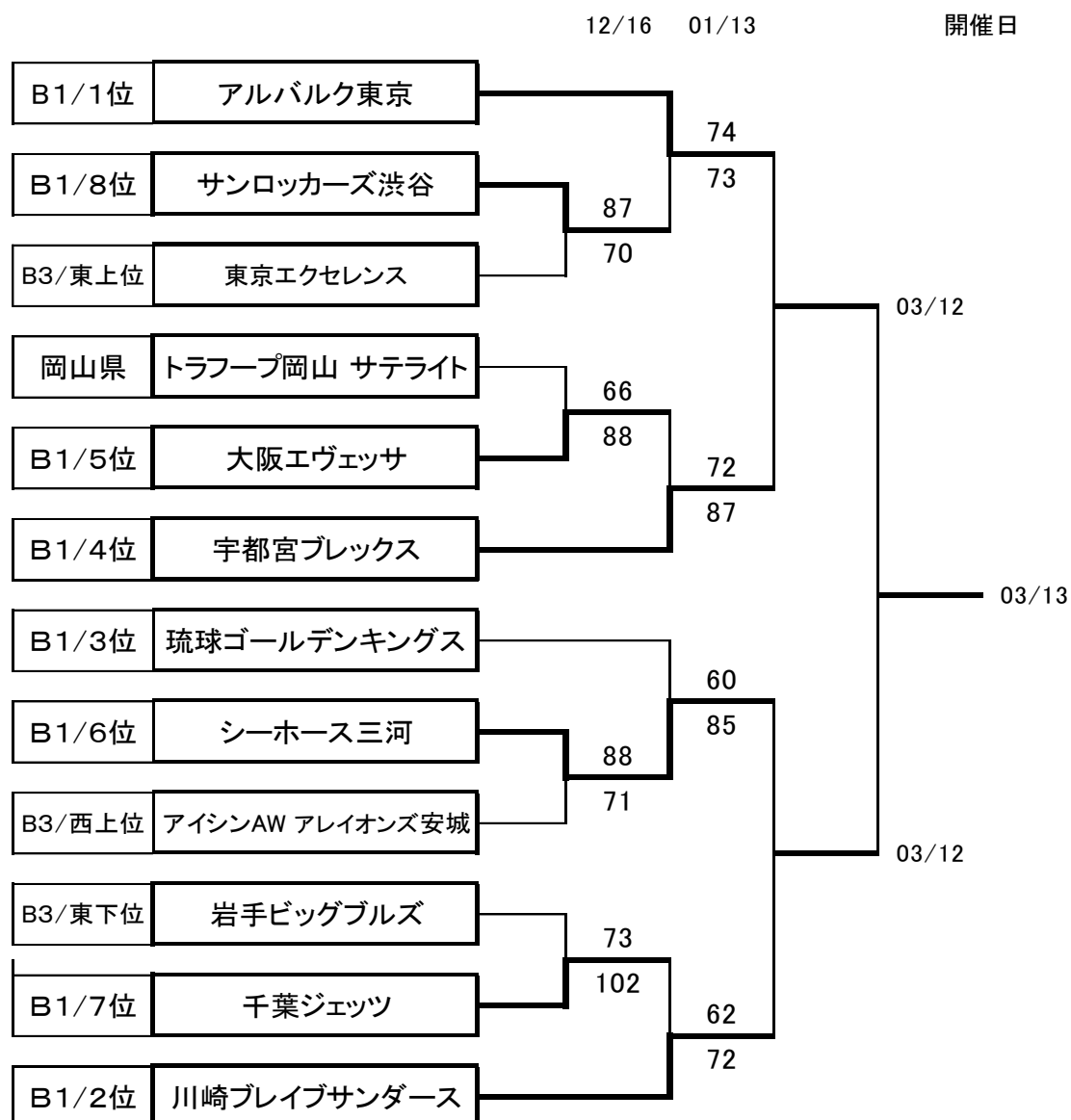
川崎ブレイブサンダース（以後川崎）対千葉ジェッツ（以後千葉）の試合は、第 3 クォーターまで接戦を演じていた千葉が第 4 クォーターで失速し、残り 8 分から約 4 分間ノーゴール、結局このクォーターの得点がわずか 7 点となって敗退した。千葉は、ポイントガードの富樫が足を痛めて途中からベンチに下がってから調子を崩し、得点も伸び悩んだ。

ファイナルラウンド

準決勝・決勝は 3 月 12 日(金)～13 日(土)にさいたまスーパーアリーナで開催される。

新型コロナ感染拡大の影響で、開催状況に不安は残るが、久しぶりに男子日本代表も東京オリンピックに出場が決まっており、質の高いゲームを期待したい。

2 次・3 次ラウンド結果とファイナルラウンド組み合わせ



第 87 回皇后杯 ファイナルラウンド結果

ENEOSサンフラワーズの8年連続優勝

[編集部]

今年度開催の「第 87 回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会」は、昨今の新型コロナウイルス感染症感染の全国的拡大状況等を鑑み、今年度に限り、大会方式を一部変更(規模縮小)することを決定し、実施された。

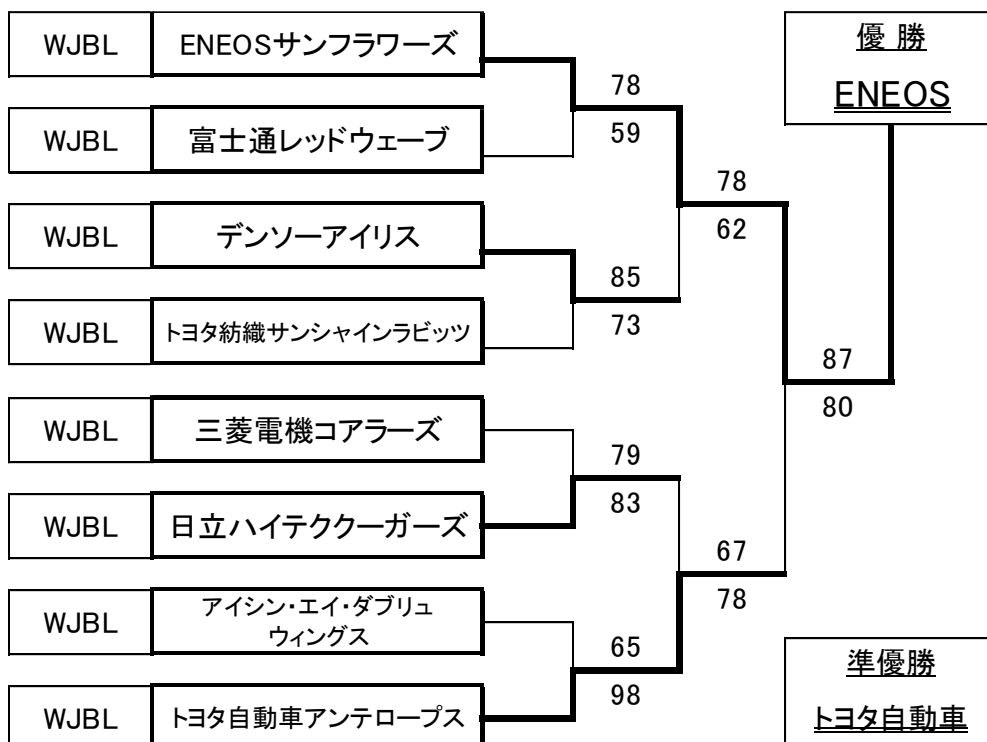
なお、ファイナルラウンドは皇后杯が昨年 12 月に終わっているが、天皇杯が来る 3 月を予定しているので、皇后杯について、天皇杯とは別に報告することとした。

皇后杯の出場チーム及び 11 月 28 日(土)～11 月 29 日(日)に開催の 1 次ラウンド(1～2 回戦)勝敗結果は前号に報告されている。

1 次ラウンドでは、都道府県代表で唯一、秋田銀行RED ARROWSが 78 - 69 でWJBLの新潟アルビレックスBBラビッツを破って 1 回戦を突破したが、2 回戦では 45 - 110 でWJBLの富士通レッドウェーブに力及ばず大敗している。

1 次ラウンド、1・2 回戦の結果、ファイナルラウンド出場はすべてWJBLチームで、ENEOSサンフラワーズ、富士通レッドウェーブ、デンソーアイリス、トヨタ紡績サンシャインラビッツ、三菱電機コアラーズ、日立ハイテククーガーズ、アイシン・エイ・ダブリュウイングス、トヨタ自動車アンテロープスの 8 チームである。

ファイナルラウンド結果



12月16日から20日まで代々木第二体育館で開催されたファイナルラウンドの特筆は日立ハイテククーガーズのベスト4進出だろう。毎シーズン初戦で敗退、もしくは予選敗退していたチームが、昨年、ヘッドコーチに元女子日本代表チームヘッドコーチの内海氏を迎え、シャンソン化粧品シャンソンVマジックから移籍したセンター#11 谷村などの活躍で好成績、リーグ戦で東地区3位、準決勝ではトヨタ自動車アンテロープスと競り合って惜敗したが、その健闘を称えたい。

ファイナルラウンドでは、日立ハイテククーガーズが三菱電機コアラーズに第1クォーターを奪われての接戦を制した以外、ENEOSサンフラワーズ（以下ENEOS）、トヨタ自動車アンテロープス（以下トヨタ自動車）がともに余裕をもって決勝戦に進んだ。

決勝戦

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
ENEOS	18	23	23	23	87
トヨタ自動車	27	20	16	17	80

決勝戦はトヨタ自動車と対戦のENEOSが、エースセンター渡嘉敷選手を含むインサイド選手を怪我で欠いたことからか、トヨタ自動車に好ディフェンスで抑えられる一方、#0馬瓜、#12三好で得点を伸ばされて第1クォーター、9点をリードされた。ENEOSは、第2クォーターに入ると#52宮澤らの得点で徐々に点差を詰めたが、第3クォーターまでトヨタ自動車にリードされ、試合ペースからみて一時はそのまま逃げ切られるかと思われた。

ENEOSは、第2クォーターに入ると#52宮澤らの得点で徐々に点差を詰め、第3クォーターでは中盤から厳しいディフェンスによってボールを奪い、この第3クォーター終了寸前にルーキー#33中田の得点で64-63と逆転に成功する。

接戦となった第4クォーターだったが、開始2分からENEOSが抜け出し、最後は7点差をつけて勝利した。ENEOSは、渡嘉敷らの欠場の穴を、宮澤を基軸とするフォワード陣が頑張って得点を重ね、8年連続25回目の優勝を飾ったが、その底力は大きくバスケットボールファンにとってはいつになく興味深い決勝戦だった。

個人賞

本大会で活躍し表彰された選手は下記のとおりである。

・共同通信社MVP賞

宮澤夕貴 ENEOSサンフラワーズ 5年連続5回目

・大会ベスト5

宮崎早織	ENEOSサンフラワーズ	初受賞
宮澤夕貴	ENEOSサンフラワーズ	5年連続5回目
馬瓜エブリン	トヨタ自動車アンテロープス	2年ぶり2回目
安間志織	トヨタ自動車アンテロープス	初受賞
谷村里佳	日立ハイテククーガーズ	初受賞

SoftBank ウィンターカップ 2020 の結果

優勝：女子 桜花学園・男子 仙台大附属明成

[編集部]

高校バスケット界最高峰を決めるウィンターカップ「SoftBank ウィンターカップ 2020 令和2年度 第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会」は、12月23日から29日まで、東京体育館をメイン会場とし、併せて武蔵野の森総合スポーツプラザで開催された。

時あたかも新型コロナウイルス感染症が拡大する中、主催者、出場チームはもとより、観客についても一定の制限をせざるを得ない大会となった。

今回は、夏のインターハイが中止になったことから、男女各60チームのの出場校内訳は次のとおりになった。

- | | |
|--|-------|
| 1. 47都道府県代表 選出又は推薦 各1チーム、計 | 47チーム |
| 2. 2020年7月末時点におけるJBA登録校数が多い
上位2都道府県 男女とも東京・神奈川から各1チーム、計 | 2チーム |
| 3. 全国9ブロック 各ブロック推薦 各1チーム、計 | 9チーム |
| 更に 関東ブロックから推薦 | 1チーム |
| 4. 開催地都道府県 東京から推薦 | 1チーム、 |

JBAは大会期間中ウィンターカップ「コロナ対策本部」を設置し、万一の際の対応に当たったが、組み合わせ決定後出場チーム内に陽性者が出たチームもあって、当初から感染予防対策に翻弄させられた。すなわち開催日直前に出場校の中から男子3チーム（船橋市立船橋、土浦日大、桐光学園）、女子1チーム（土浦日大）が、陽性者が出たとして、欠場。開催後も、試合当日に陽性者や発熱者が発生し、男子の光泉カトリックと実践学園が欠場した。

更に大会中においても出場チーム中の男子4チームで陽性者や発熱者が発生し、その時点でチームは棄権扱いとなっている。中でも男子開志国際は、1・2回戦を100点ゲームで制しながら、1回戦で対戦した相手チーム専修大附属の関係者が感染したとの理由で、濃厚接触者の疑いが強まり、対策本部から棄権するよう指示を受けて3回戦を棄権した。ところが、後に保健所から濃厚接触者にはあたらないという通知を受けたが試合はすでに終わっていて残念な結果となった。

大会には男子58チーム女子59チームの出場で始まったが、夏のインターハイが中止になったことから、上記出場校内訳に示されるようにシード校の扱いが不規則になり、1回戦から強豪チーム同士が対戦するという激しい戦いも見られた。

また、男子のかつての強豪で全国制覇58回の歴史を持つ秋田の能代工業高校は、人口減少によって能代西高校との統合が決まり、チーム名を能代工業高校として出場するのはこの大会が最後となり、学校名も能代科学技術高校に変わる。数多くの優秀なプレイヤーを輩出し、日本の男子バスケットボール界に足跡を残した能代工業はその活躍が期待されたが、1回戦で九州学院(熊本)に逆転されて敗れ去った。

試合とは別にこの大会の審判について嬉しいニュースが飛び込んできた。それは多くの審判員が笛を吹いている中で、現役高校生がB級公認審判の資格を得てこの大会のレフリーを務めたことである。十代の高校生が公認資格を持って全国大会を吹くことはこれまでになく、将来に大いなる期待が持てそう。その審判は三浦海音君で都立小山台高校の3年生、国際審判員の資格を持っていてオリンピックでも審判を務めた平原氏が顧問として直接指導した結果、ウィンターカップの笛につながったという。国際的にみて日本における審判員は若手が少ないという経過があるが、こうした若い審判員がさらに増えるきっかけになるのではないだろうか。

女子経過

女子においては出場チームの得点能力の高さが目立った。1～2回戦で100点を超えるゲームが11ゲームあったことがそれを表している。特に3Pシュートの確立が向上して、これからの日本バスケットを背負うであろう選手たちに期待がかかる。

特に桜花学園が1回戦で叩き出した146点は凄い。40分間平均で考えると1分間に3.7点の得点が必要となり、相手チームのディフェンスが弱いといっても相当な得点能力といえよう。

桜花学園は、センターに留学生で186センチのアマカ選手を擁し、リバウンドからの素早い攻撃を仕掛けたことで、1回戦146点、2回戦108点、3回戦91点、4回戦97点と高得点をマークしている。アマカ選手は、決勝戦で89点中53点をたたき出し、リバウンドも21本取るなど、高身長と高能力の選手だ。

一方、決勝戦で対決した東京成徳の得点力も高い。1回戦117点、2回戦105点、3回戦97点、4回戦96点、準決勝96点と3Pを軸に得点を重ねてきている。しかし、4回戦、準決勝では、終盤に追い上げを受け、薄氷の勝利であった。

4回戦	Q1	Q2	Q3	Q4	計
安城学園	22	17	20	35	94
東京成徳大学	26	25	21	24	96

準決勝	Q1	Q2	Q3	Q4	計
札幌山の手	26	25	20	21	92
東京成徳大学	29	28	26	13	96

決勝戦は得点の取り合いになると思われたが、両チームの厳しいディフェンスが功を奏して熱戦となった。しかし、東京成徳が前述のアマカ選手を抑えることが出来ず、桜花学園の優勝となった。桜花学園は2大会連続で通算23回目の優勝。

決勝	Q1	Q2	Q3	Q4	計
桜花学園	21	21	20	27	89
東京成徳大学	12	21	17	15	65

男子経過

開志国際(新潟)は、前述のように自チームから陽性者が出たわけではなく、2回戦目も100点ゲームで勝ち進み、3回戦で仙台大附属明成(宮城)と対戦する際に濃厚接触者の疑いありと判定され、本部からの棄権指示で試合ができなかったことは無念であったに違いない。

男子の試合でも100点ゲームが13ゲームもあり、高校生のレベルの上昇を感じる大会であった。1試合で100点以上の得点を挙げるには、3Pシュートをはじめとするシュート確率のアップがなければ簡単には達成できない。高校生であっても3Pエリアからのジャンプシュートが数多く決められるようになったことも頼もしい。

準々決勝	Q1	Q2	Q3	Q4	計
福岡第一	20	11	17	13	61
仙台大学附属明成	14	11	19	20	64

準決勝	Q1	Q2	Q3	Q4	計
北陸	14	12	18	14	58
仙台大学附属明成	19	11	17	13	60

激戦の末、決勝に勝ち進んだ仙台大附属明成は、準々決勝で福岡第一(福岡)、準決勝で北陸(福井)と連続の大接戦の末、逆転の僅差で勝利、一方の東山も準決勝で同県の洛南に87-67によりリベンジしての勝利であった。

決勝戦	Q1	Q2	Q3	Q4	計
東山	20	20	15	15	70
仙台大学附属明成	20	6	16	30	72

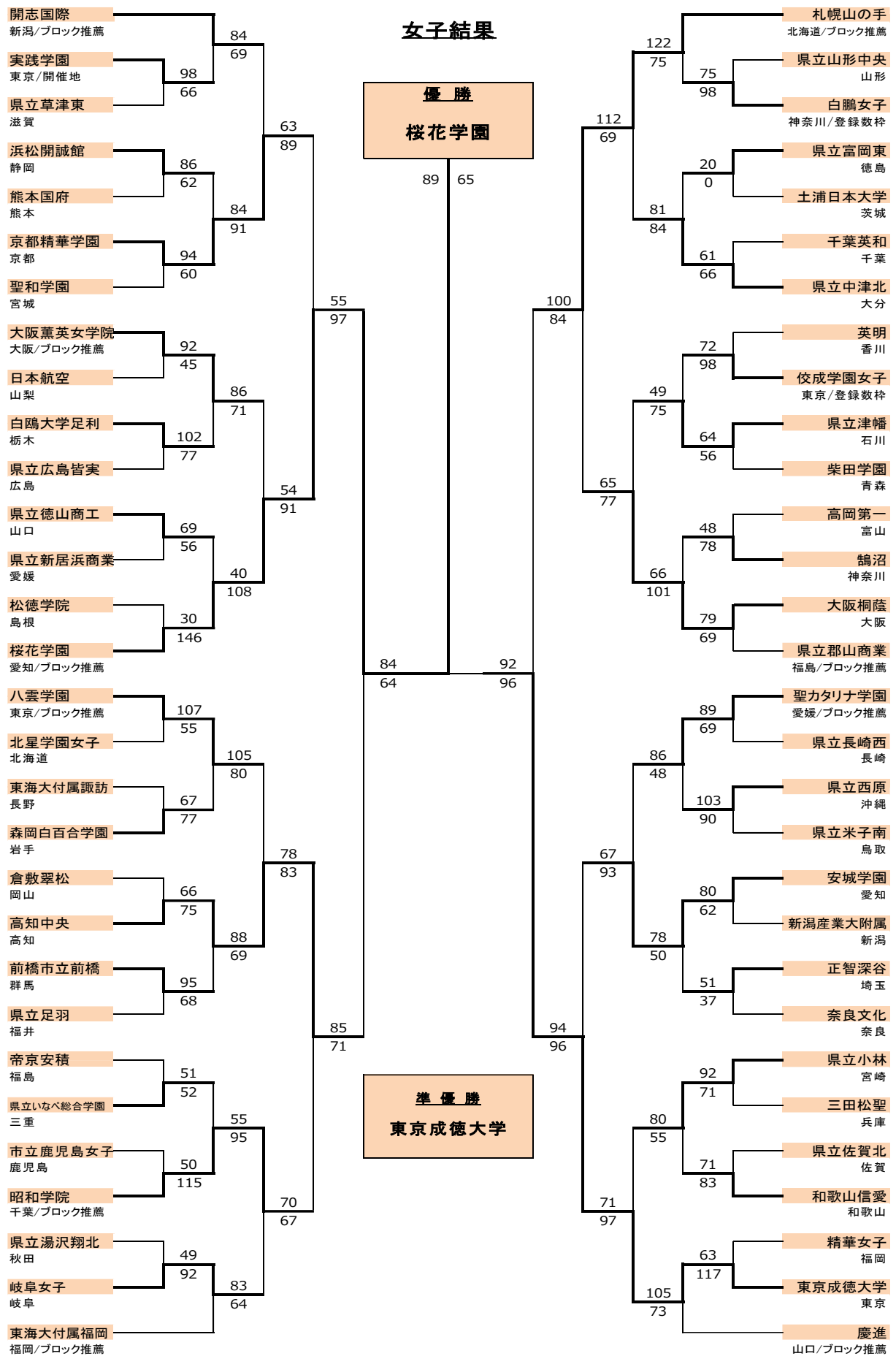
決勝戦は予想とは裏腹に、東山が大会屈指のポイントガードと称される米須の活躍でリードを広げ、第3クォーターで仙台大附属明成に17点差をつけ悠々と勝つと思われた。

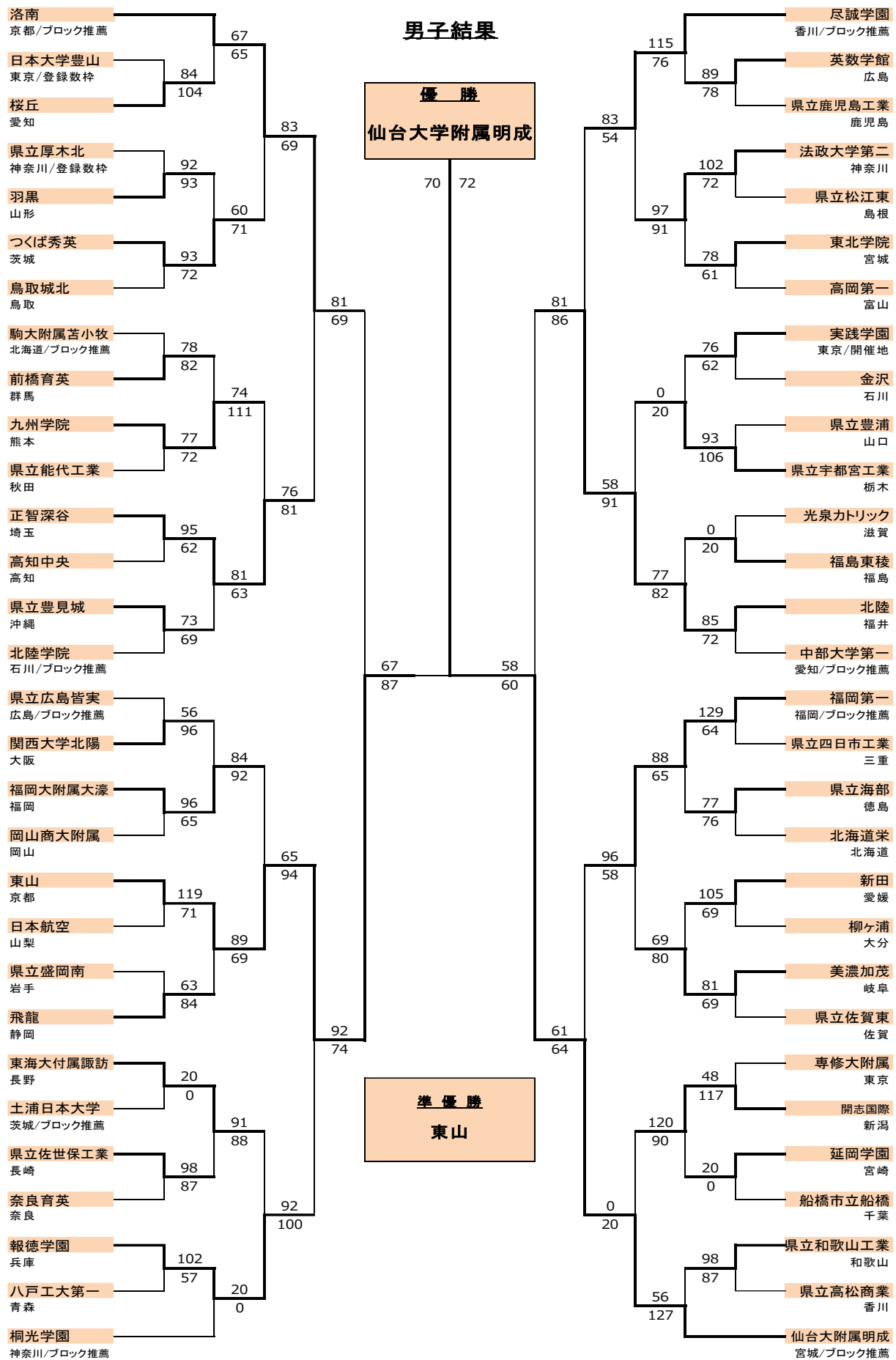
第4クォーターに入ると準々決勝で福岡第一(福岡)に3点差で逆転勝ちし、準決勝でも逆転勝ちした仙台大附属明成の粘りがここから始まる。

仙台大附属明成がオールコートプレスに近い厳しいディフェンスで次々とボールを奪って得点すると、東山との差があつという間に詰まって3点差となる。東山はタイムアウトを取って立て直しを図ったが、仙台大附属明成は相変わらずの粘りを発揮し、残り1分を切ったところで逆転に成功する。

その後、東山も負けじとすぐに同点とし延長戦かと思われたが、最後に攻撃のボールを持った仙台大附属明成が、残り5秒でジャンプシュートを決めて勝利するという劇的な結果に終わった。

バスケットボールは流れのあるスポーツとも云われるが、17点の差が逆転された今回ほどその特性を感じさせた試合ではなかったろうか。勝った仙台大附属明成とよく戦った東山に賞賛の拍手を贈りたい。





【先人の軌跡】

牧山 圭秀 さん

生涯を、日本バスケットボールの強化と普及に尽くした

[歴史部]



牧山圭秀（よしひで）氏、享年 91。

1910 年（明 43）7 月 30 日生まれ、2001 年（平 13）11 月 2 日逝去。

今回は、1995 年（平 7）7 月から亡くなるまで「日本バスケットボール振興会」の会長を務められた牧山圭秀氏を取り上げる。

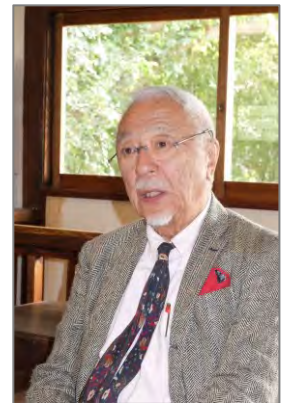
牧山圭秀氏は、父親の仕事の関係で当時日本の植民地であった朝鮮・京都市に生まれ、京城で幼少期を過ごした。その後、麻布中学に入学、走り高跳び選手として活躍。早稲田大学に入学後、バスケットボール部に入部。李相佰監督の指導のもと本格的にバスケットボール競技を始め、選手として活躍。1934 年（昭 9）に早稲田大学・政治経済学部を卒業。

圭秀氏の父親耕蔵氏は、朝鮮新聞、長崎日日新聞などの会社を経営、圭秀氏も長崎日日新聞に入社し、記者として健筆を振るった時もあった。その後、浦賀重工（住友重工）、ヤナセなどに勤務し要職を努めた。

・「武相荘（ぶあいそう）」に圭秀氏のご子息牧山圭男氏を訪問

昨年 10 月の秋晴れの日、小田急線鶴川駅から徒歩 15 分の旧白洲次郎邸「武相荘」を振興会上谷、池田、渡辺の 3 名で訪問した。

武相荘（ぶあいそう）倶楽部の会長をしておられる牧山圭男さん（白洲次郎の娘婿）にお会いし、お話をお聞きするためである。（以下、文中の敬称を略）



お話をお聞きした
牧山圭男氏

・西郡正三、李相佰、畑龍雄との交流と圭男氏のバスケット経験談

慶應義塾大学出身の西郡正三（元日本協会国際部長）と圭秀氏とは、出身大学が違ったが、同じ世田谷区に住んでいたこともあり、とても仲が良かった。当時、西郡は、白洲次郎（東北電力の総裁時代）の秘書の仕事をしていた関係もあり、よく白洲さんの話は聞いていた。屋内のコートが少なかった時代にナショナルジム（国民体育館）に父親圭秀氏と一緒にバスケットの試合を見に行ったことなどを懐かしく語っていただいた。

牧山圭男さんは自分個人の「バスケット人生」（慶應義塾高校時代バスケット部で活躍）にとって『1950 年の「ハワイ 2 世チーム」と 1952 年アメリカのプロバスケットボールチーム「ハーレム・グローブトロッターズ」の来日が二つの大きな出来事であった。日本のバスケット界においても、その時代の日本の文化的にも大きな出来事であった』と思うと。

中学時代に父親が連れて行ってくれた「ハワイ 2 世チーム対全日本」の試合で「ワンハンドシュート」を初めて見たこと。パスもシュートも両手でしかやることがない時代にパスもシュートも片手でやるハワイチームのプレイは、私にとっても日本のバスケットにとっても大きな衝撃であった。また、ハワイチームの監督と畑龍雄先生と牧山圭秀さん、三人の写真を見て、父親が畑先生と非常に仲が良かったことも良く覚えています。

もう一つは、プロのバスケットボールチームである「ハーレム・グローブトロッターズ」の試合を見て、これはエンターテインメントでありショーだと思った。

白洲次郎は、イギリスの教育を受けているからプロとアマについて、今の時代と考え方は違う異なった見方をされていてプロは全く認めてない。「アマチュアリズムがスポーツ」であり、「プロスポーツ」という言葉はない、プロは、あくまでも見世物であってプロとアマとは全く違う。スポーツという言葉は純粹にとらえて「スポーティ」とか「スポーツマンシップ」という言葉は、紳士的、礼儀正しいという意味であり、「スポーツマンシップ」の意味は、「武士道精神」と訳すべきであると小林秀雄（白洲次郎と親しかった哲学者）も言っていたと語っている。

李相佰さん、李先生のことを父親は非常に尊敬していた。戦後、韓国と国交正常化する以前の時期に李先生と国境付近で会ったことがあり、懐かしいねと抱き合ったこともあるようだ。スポーツ選手が政治的に微妙な時期にそのようなことをやってはいけないと政治的に怒られたこともあるという。

・祖父の牧山耕蔵、父親の牧山圭秀のこと

祖父の牧山耕蔵は、長崎県出身、武士の出で早稲田大学出身、学生時代に中国語を勉強し満州へ行く予定であったが、当時の朝鮮にとどまり事業に成功し、朝鮮新聞社、長崎日日新聞などを経営し、長崎県から立候補して衆議院議員になった。

圭秀本人は、父親耕蔵の仕事の関係もあり京都市で幼少期を過ごし、その後、全国的にも陸上が強かった麻布中学に入学、走り高跳びの選手（後述のようにバスケットの試合に助っ人）として活躍。早稲田大学入学後、バスケットの代表選手として参加したマニラで開催された第10回極東選手権大会で、選手を代表して宣誓を行ったようだが、このことは祖父が政治的に動いたのではないかと考えている。

父親圭秀は、生涯に渡って、バスケットボールの現場監督みたいなもので、世間の物事にはこだわらない性格、真面目でバスケットの虫。これだけ自分の時間を費やしたのにバスケットから当時電車賃くらいの、報酬を得たであろうが、基本的に無報酬でバスケットに奉仕した。バスケットの事があると仕事を放り出して外出してしまい、サラリーマンとして異常であった。ゴルフも好きで毎週ゴルフをしていたのに、よくバスケットに費やす時間があっただと思う。

麻布中学は、陸上が強豪校でオヤジが走り高跳びで3位になった。新聞に「前年の覇者の麻布中学は、牧山の走り高跳び3位のみ」と新聞に報道されたこともあった。

当時の慶応義塾高校はバスケットが強く、部員から「私達は、進駐軍の兵隊からディフェンスの足の動かし方などを習ったこともある」と聞いている。

・選手・コーチ・監督・国際審判員・協会役員としての圭秀氏

戦前は左ききの名ガードとして、戦後はコーチ、監督、また国際審判員として活躍、その間、日本協会の中枢にあって日本のバスケットボール、アジアのバスケットボールの為に全力を尽くし今日の日本のバスケットボールの世界の水準にまで引き上げた功績は高く評価される。早稲田大学バスケットボールの創始者の一人である李相佰（韓国IOC委員）のもとで、第一早稲田高等学院（当時の学制上の大学予科）のコンクリートの固いコートで鍛え上げられ、基礎技術をしっかり身に着けた。現役時代、身長170cm、体重60kg、やせ型の体格、浅黒い顔にメガネをかけ、鋭く叱咤しながら左手から出てくる鋭いパスはチームの攻撃を引き締めるのに十分であった。1934年（昭9）早大チームが全日本選手権を

獲得した時の大内哲彦氏（戦死、同学年の昭和9年卒）は麻布中学時代からの名コンビであった。麻布中学時代は、走高跳の選手であったが、人数の少ないバスケットボール部にも助っ人として試合に駆り出されていた。その経験を活かし早稲田大学入学後は、バスケットボール部に入部、李相佰監督の厳しい指導のもとで成長。在学中の6年間に全日本総合選手権大会に3回優勝、そのうち4年間は、レギュラー選手として大活躍した。

1933年（昭8）早稲田大学バスケットボール部主将、同年第10回極東選手権大会がマニラ（フィリピン）で開催され、バスケットボールの代表選手12名のうち早大から4名（牧山、大内、斉藤、森澤）が選ばれ、牧山は、日本代表選手の主将に選ばれ、参加全選手を代表して開会式の選手宣誓を務めている。1934年（昭9）早稲田大学・政治経済学部卒業。1939年（昭14）カナダ・ウェスタンチーム戦、日満華交歓大会、1940年（昭15）東亜競技大会日本代表監督などを務める。1950年（昭25）ハワイ2世チームが来日時に全日本の監督を務め、1951年・第1回アジア競技大会（インド）1954年・第2回アジア競技大会（フィリピン）全日本監督、1958年、東京で開催された第3回アジア競技大会の審判委員長、1964年東京オリンピック総監督、1966年・第5回アジア競技大会（タイ）の監督など、数多くの主要な大会の役員・要職を務めた。

協会の理事として、富田毅郎氏、大庭哲夫氏二人の理事長のもとでその実力を発揮した。一番苦労したのは、終戦直後、昭和20年12月協会が再発足し焼け野原から立ち上がった時、満足なコートも少なく、ボール、靴、ユニフォームなど用具の調達もめどが立たず協会役員をはじめ、各大学の選手もどこに居るかわからない。この混乱の時代に富田理事長のもと常務理事として総務委員を担当し、財政の確立をはかり、戦後日本協会の組織の基礎を築いた。その後も長く協会の理事職を務め、昭和46～47年協会の理事長を務めた。プレイヤー技術の向上には、審判の技術向上が不可欠との立場から審判委員長も務め、1984年1月日本のバスケットボール審判の育成や技術向上の助言と協力などを目的とした「国際公認審判OB会」の会長に就任。「日本バスケットボール振興会」では1993年（平5）会長に就任その後名誉会長となり、2001年（平13）に亡くなるまでこれらの職を務めた。

1942年（昭17）協会創立10周年の記念式典で圭秀氏は、功労者褒賞を受けている。

・圭秀氏について補足

「スポーツは楽しむべきだ」を曲解して「苦しい練習をしたり、試合にむきになるのはスポーツの本道ではない」と言うような人がある。「しかし正しい技術をより科学的に、血のにじむような練磨を励めば励むほど、尚一層深みのある楽しいゲームができる」と1947年（昭22）当時、練習に取り組む自分の考え方を話している。

牧山の性格は、生来相当毒舌の持ち主であったため、思い切ったものの言い方をし、とかく相手に誤解を与えやすい面もあったが、もともと素直で、あっさりしたスポーツマンであった。ご子息の圭男さんも同様に、「父親は、とにかくバスケットが好きで真面目であった」と語っている。

・バスケットの指導書・技術書の発刊

日本協会が発行していた機関誌「バスケットボール」に技術についての研究発表を毎月



振興会懇親会で乾杯の音頭をとる牧山名誉会長

のように掲載し、全国のバスケットボールの指導者や選手に大きな影響を与えた。

1948 年（昭 23）2 月に（株）旺文社から「籠球・排球」（青年スポーツ新書）を出版し、バスケットボールを牧山圭秀、バレーボールを前田豊（元バレーボール協会）が執筆し共著で発行している。発行の序文の中で「籠球を愛し、籠球技術の正しい復習発達を切望し志す方々に捧げたい」と語り、筆者が早大出であるために、「本書に盛られている主張や考え方が早大調であり、又在学六年間を通じてコーチを受けた李相佰氏の持論が主流をなしている」と語り、最後に本稿の整理、構図等につき多大な援助をいただいた西郡正三氏の友誼に謝意を表している。

1952 年（昭 27）には（株）旺文社のスポーツシリーズの中に「バスケットボール」（書名）を新たに出版している。付録として「ハワイチームに学ぶ」「フィリッピン航空会社（P A L）チームを観て」という主題で牧山なりに当時の最新のバスケットプレイを説明し、巻末の「連続写真解説」日本鋼管・池田選手を始めとする当時の一流選手のプレイを「連続写真」で解説している。1961 年版（昭 36）では、付録で「連続写真解説」に加えて「国際ゲームに学ぶ」と当時の国際ゲームを解説する、当時の日本バスケットボール界の技術の考え方がわかる画期的な試みであり、貴重な記録となっている。

1979 年（昭 44）3 月に「図説バスケットボール事典」を講談社から発行している。牧山、畑龍雄、吉井四郎の 3 人の共著によるもので、「技術編」を吉井、「歴史編」を牧山、「審判・ルール編」を畑が各々担当し分担執筆している。全編に写真を豊富に掲載し、特に技術編では、約 20000 枚の写真から精選した 3000 枚の連続写真とスナップ写真、多くの資料を図表にして収録し、わかり易い解説とともに読者の理解を容易にしたもので 600 ページ以上にわたり、バスケットボールの解説書としては大著である。

牧山圭男さんは、「旺文社発行の「籠球・排球」誌に一枚一円の手伝い賃で、印紙に印鑑を押す手伝いをさせられた記憶がある」と話された。

・日本協会の総務委員長時代の「お詫びの文章」

協会の総務委員長であった牧山圭秀氏は、日本協会の機関誌・第 2 号（昭 22・12）で、以下のような「お詫び」の文章を掲載している。

『前号（第 1 号）の記事「終戦後の斯界展望」記事の中で、最近の実業団籠球がプロ化の傾向のきざしが見えるので、面白からざる事態の発生せざる中に是正する必要ありとの意見が述べられている。

牧山は、この記事についてこのような個人的な色彩の強い記事を編集部即協会の意見として掲載したことは、編集部引いては協会の事務当局の不注意であり、この点につき十分に責任を感じ茲に全国実業団各位に対して深く謝意を表しますと述べている。また、現協会理事会の意向は現在の実業団がプロ化の傾向にあるとは考えておりません。むしろ戦前にも優る各チームの技術的な向上と斯界に於ける大いなる貢献に深い感謝の意もっており、今後の我国籠球界の健全なる発展に、尚一層ご協力下さることを切望いたします。』

これは『実業団チームの強化のための選手補強について、プロ化の傾向があるとしては是正の必要がある』と述べたことに対して掲載した「お詫び」の文章であり、圭秀氏が総務委員長として、当時のアマチュアの考え方に則った「チームのあり方」を説明している。

・戦前から戦後に渡り、日本バスケットボールの現場監督であった牧山圭秀氏

生涯を日本のバスケットボールの発展と強化のために捧げた牧山圭秀氏の功績を称え、その強い願いを後世につなげたいと考えます。

終わり

シニアチーム紹介 セブンブラザーズ (旧7帝大OB)

[普及部]

普及部では本誌紙面で全国のシニアチームを紹介しているが、今回は第6回目として“セブンブラザーズ”を、振興会蒲田副理事長からチームの生い立ち歴史などを紹介して頂く。

旧七帝大バスケットボールOB会 セブンブラザーズ

「1962年から50年以上続く「七帝(大)戦」とは旧七帝大合同で毎年持ち回りで開催する七大学総合体育大会で各運動部がリーグ戦で戦う。在学中1-4回、顔を合わせ、何か親しみを感じるも別離が常だ。そうした戦友が在京の団塊世代を中心に往時を偲び、杯を交わし歓談している。ある時「たまには体を動かそうや」と老骨に鞭打ち、久しぶりのコートでボールと戯れるも飽き足らず、「せっかくなら対外試合をやりたいね」と2013年に初めて有志6人がバスケの聖地“代々木第二体育館”での全国シニア大会に出場。が、体が思い叶わず、平均4歳上のチームに敢え無く敗戦、屈辱が残った。旧七帝大は戦前から戦後にかけて、バスケ界を牽引した輝かしい歴史はあるが、その後勢いなくマイナーな存在に落ちた。学生時代の実績が物をいう実力の世界だ。それでも一人ひとりとは都道府県立・私立の伝統校出身で、文武両道を実践した兵揃い。インターハイに出場した猛者も何人かいる。年相応の身体劣化に比し、バスケへの沸々とした情熱は今尚衰えない。“昨年のリベンジを”と果敢にも再挑戦

を決意！チーム名「Seven Brothers」の真っ赤なユニフォームの出で立ちで去る6月7日のシニア大会に挑んだ。結果は1勝1敗。兵庫のチームには負けたが、再戦した“につっき”チームになんと1点差で辛勝、溜飲を下げた。実はそのチーム「Star of Stars」は名の通り、1965年から75年にかけて東京6大学で活躍した元五輪選手を含むスター軍団！それだけに感慨もひとしお、懇親会では勝利の美酒に笑酔、次戦での再会を誓いあった」

財界 2014年9月23日号

旧七帝大バスケットボールOB会

仲間

1勝1敗の戦い。6月7日のシニア大会に挑んだ。結果は1勝1敗。兵庫のチームには負けたが、再戦した“につっき”チームになんと1点差で辛勝、溜飲を下げた。実はそのチーム「Star of Stars」は名の通り、1965年から75年にかけて東京6大学で活躍した元五輪選手を含むスター軍団！それだけに感慨もひとしお、懇親会では勝利の美酒に笑酔、次戦での再会を誓いあった」

提供 総合ビジネス誌「財界」

以上は、総合ビジネス誌「財界」2014年9月23日号の“ゆかいな仲間”に掲載された記事の一部。

創設メンバーは19名（含む応援団5名：うち1名、名古屋大学OBで当時、東海バスケットボール連盟副会長で活躍されていた安藤二郎君が早世されたのが惜しまれる）であるが、現在までにその多くが引退し、現役を続けているのは4名である。その後、若手（60歳代前半）メンバーが続々と参加し、現在では15名前後になっている。なかでも、輝いているのが、選手兼マネジャーの福島豊君。

プレー経験は高校迄で、その後は、現役のJBA公認B級審判として活動中であつたが、そこを半ば強引にお願いして当チームに加わって貰った。

チームはといえば、団旗まで作り、やる気は十分にあるが、仕事現役のメンバーや遠方から参加のメンバーも多く、結果、全員参加の練習がままならないのが現状。

加えて有力若手メンバー2名がアキレス腱を切るという不運に見舞われたが、近々に復帰の見込み。捲土重来を密かに期している。

夢は、「Seven Sisters」の創設。10-12年先になると思われるが、それまでボケないで、長生きしたいと日々願う今日この頃である。

文責（蒲田 尚史）



Bリーグにスポーツくじ導入

[普及部]

2015年、日本バスケットボール協会の川淵三郎会長がサッカー界（Jリーグ）が toto から受けた助成金で活性化したことを例に「バスケットも toto 参入を」と呼びかけたのが契機になり、「スポーツ振興くじ」導入への動きが始まった。その後、スポーツ振興くじ（toto）にバスケットボールを加える改正スポーツ振興投票法が 2020 年 12 月 2 日の参議院会議で可決・成立し、スポーツ庁は、Bリーグを対象とした「くじ」の、2022 年秋からの導入を目指している。

・「スポーツ振興助成」

日本スポーツ振興センター（以下 J S C）では、国のスポーツ振興基本計画に基づくスポーツ振興政策の一環として、我が国のスポーツの国際競技力向上、地域におけるスポーツ環境の整備充実など、スポーツの普及・振興を図るため、スポーツ振興事業助成を行っている。

・「スポーツくじ」（toto・B I G）の収益による助成

世界の第一線で活躍する選手を育成したり、子供からお年寄りまで、誰もが、いつでも、身近にスポーツを楽しめる環境を整備するなど、新たなスポーツ振興政策を実施するための新たな財源を確保するため、2000 年（平 12）からスポーツくじ（toto・B I G）を実施し、その販売による資金をもとにスポーツ関係団体へ助成金の交付を行っている。

くじを運営する J S Cによると、くじの売り上げは 2016 年度に過去最高の 1118 億円となって以降 2019 年度に 938 億円までに落ち込み頭打ちの傾向（2008 年度の売り上げ額 897 億円、2009 年度の売り上げ額 785 億円）となっている。

2020 年度は、新型コロナの影響で、観客制限や大会中止を強いられるなど各団体の大幅な減収が予想されこともあり、今後の財源を不安視する声が関係者から上がっていた。

スポーツ庁の試算では、くじの対象が拡大されれば、売り上げは、現状から大幅増の 1484 億円になると見込む。そうなると助成金は 230 億円～260 億円程度（20 年度の助成額は 150 億円程度）に達するという。

toto の予想くじは、購入者が複数の試合結果を占う仕組みであり、八百長の不正が行われる可能性は低いと考えている。

くじの還元率は、競輪・競馬などの公営競技の還元率の 70～75%より低い 50%と抑えられていて、toto は、変動制であるのでくじの購入時点での倍率も分からない。

・助成を受ける Bリーグ運営側の思惑と背景

くじの対象となることで露出度が上がり、Bリーグの知名度にもつながるのではないかという期待感がある。

2019～2020 年シーズンの Bリーグはコロナ禍で約 3 割の試合が中止になり、B 1・B 2 リーグ合計 36 クラブの 8 割が赤字、3 割の 22 クラブが債務超過に陥る見込み。

くじの対象になれば、JSCから「リーグを安定的に開催するための経費」として数億円の支援を受けられ、その一部をクラブに還元できる見通し。Bリーグの島田慎二チェアマンは「助成制度を活用しながらリーグやクラブの発展につなげたい」と語っている。

・過去のバスケットボール関連への助成金採用の例

地方公共団体（市・町・村の体育館など）の施設に「大型スポーツ用品の設置」の細目で「バスケットボール台」を購入、「床の張替え」などの助成を受けている。

・主な改正点

バスケットボール（主にBリーグ）が対象になる。1試合の結果を予想する「単一くじ」、リーグ戦の優勝チームを予想する「順位予想くじ」などを導入する。助成の対象が施設整備やクラブ活動などに加え、空調・ナイター照明整備や医療スタッフ確保、部活動の改革、災害や感染症対策への支援などに拡大できる。リーグに配分する運営費の使い道に、選手や審判の意見を反映する仕組みを整備することも可能になる。リーグ側に、選手らの負傷などの情報についてSNSなどで発信しないように改めて研修を徹底する。

・コロナ禍のスポーツ界は、過去にない新しい時代へ

クラブの収入は、入場料、放映権料、広告などのスポンサー収入が柱で、Jリーグ、Bリーグも地域と密着すること理念とする運営を行い、社会的価値を高めることで経済的価値が高まる考え方の経営。従って多くの地元のファン、地域社会の企業、スポンサーなどに支えられている。観客数の上限、試合数の制限、コロナ感染対応などの厳しい環境の中でBリーグの開催が求められ、あらたな価値の創造が求められることになる。

スポーツ基本法は「スポーツの価値を具現化」し、スポーツマンシップ（クリーンでフェアなスポーツの推進）や健康といったメッセージを発信して「スポーツ社会の創造」に繋げることを目標にしている。

※参考資料

スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、新聞などのスポーツくじに関連した記事を参考に作成した。



甲南クラブの想いで

山本 誠

昭和 37 年 (1962 年) 甲南大学は関西バスケットボール 1 部リーグにて夢の初優勝を飾ることが出来ました。優勝はもちろん学生たちの頑張りがあったからですが現役を応援し続けた先輩たちの支えも力になりました。

甲南大学を卒業する優秀なプレーヤーは必ず「甲南クラブ」に入り後輩達の練習に参加し、「現役を強くしたい」「優勝させたい」という思いは連綿として続きました。当時の甲南大学は選手の数が少なく、試合形式の練習時などは人数が確保できなく、先輩達の手助けが大いに役立ちました。

甲南クラブとして正式に発足したのは昭和 35 年で、その時のメンバーは関西在住のOB (藤田・戸山・野間元・宮垣・村井) でした。昭和 42 年度には埼玉国体に出場、正月に開催される全日本総合にも出場することが出来ました。昭和 50 年までの 15 年間、全日本総合選手権 2 度、埼玉・福井・長崎・盛岡 (ベスト 4)・和歌山 (ベスト 8)・鹿児島 (ベスト 8)・三重 (ベスト 8) で開催された国体 (埼玉国体から鹿児島国体まで 6 年連続出場)、毎年開催される五大都市大会にも常時出場し、近畿・兵庫県大会も含めて年間の試合数は約 80 試合でメンバーは勤務の都合をやりくりして甲南クラブの快進撃は続きました。

チームが強くなってくると入部希望者も増え甲南大学OBのみならず、中川一彦・久武康成・鹿子木雅 (以上慶応OB)、田中誠一 (明治OB)、高倉潤一郎 (立教OB)、片山健次郎 (中京大OB)、東式輝 (滝川高OB) 他が時期に多少のずれがありますが参加し、関西に甲南クラブありと言われるくらいの勢力になりました。

昭和 43 年にはOB遅立有 (故人) 氏の並々ならぬ尽力により、当時国交のあった台湾 (中華民国) から招聘され台湾バスケットボール界の雄、裕隆自動車を始め夢のような遠征国際試合を体験しました。当時はまだ海外旅行もなかなかいけない状況の中貴重な経験をすることが出来ました。



1968. 4. 甲南バスケットボールクラブ訪台試合記念 於大阪国際空港
(株) 国際旅行社大阪支店



布谷得意のドライブイン
(於、台湾)

会員だより

兵庫県で常勝の甲南クラブは昭和 50 年第 1 回全国クラブバスケットボール選手権大会で勝ち進み決勝戦で鳴門クラブを大接戦で破り優勝を果たしました。大会を通じて活躍したのは片山、高倉、布谷・山上・中島（甲南大OB）でした。とくにアパッチ（布谷）は 10 数年続いた甲南クラブの歴史で中心選手として大活躍、チームを引っ張り続けました。藤田康博氏の存在も欠かすことが出来ないでしょう。甲南クラブ発足時より参加、監督としてチームをまとめ物心両面に亘りクラブを支え続けました。

当時の甲南は中高大学の結びつきが強く、昭和 36 年甲南中に入学した私は大学のリーグ戦、実業団で活躍していた布谷の試合を見て育ちました。高校・大学では一緒に練習する機会もあり、また大学 4 年時は監督として指導もして貰いました。布谷以外のOBとも同じでした。他校ではまだまだ厳しい上下関係が残っている時代でしたが甲南は比較的緩やかで、どちらかと言えば家族的で仲間意識が強かったと思います。そのような関係が甲南クラブでもチームワークの良さにつながったのでしょう。又他大学出身のメンバーも仲間としてチームに溶け込み大きな力を発揮したものです。

三重国体に参加した際にはテレビの解説者に「甲南は全員がバスケットをよく理解している。勝つことへの執念と勝負どころの集中力をもっている」と評してもらい、立教大OBの高倉氏は甲南大バスケット創部 50 周年誌に、甲南クラブに入ってプレーしてみると、バスケットの技術・知識そしてチームの一体感などはさすがと思った。練習はあまりしなかったものの選手一人一人の良いところを掴み、それを生かしたチーム作りをしていく素晴らしいチームでした。良い面を引出してもらい、大学時代からのプレッ



三重国体にて（前列左端が筆者）

シャーからも解き放たれのびのびプレーできた。改めてバスケットの面白さ楽しさを教えられた。と寄稿して頂いています。甲南クラブの良さを言い得ていると思います。

当時を知るOBから折に触れ甲南クラブ復活を求められますが、卒業後もプロ、社会人チームで各人プレーを続ける等色々な事情から中々難しいところです。

（甲南大学 OBOG 会 会長）

会員だより



ACTIVEHOOP

バスケットが大好きな人の味方

高橋 旭

私達「ACTIVEHOOP」は、「バスケットボール難民の救済」を目的としたバスケットボール事業を行なっています。

ここでいう「バスケットボール難民」とは、バスケットボールをプレイしたいけど、環境やレベルの相違によって、競技が出来ない人達を指しています。

ここに、「ACTIVEHOOP」を紹介しますので、皆様のご支援を頂けると幸いです。

「バスケットボール難民」の為の主な事業として下記3点を挙げています。

1. 大会の主催
2. スクールの開催
3. 練習会の開催

1. 大会の主催事業 これには、現在下記の2つの大会があります。

一つ目：社会人の為の「バスケットボールワンデー大会」

私達のバスケットボールワンデー大会の特色は全試合4クォーター制を導入し、プレイヤーの目的別大会になります。

既存の草大会は体育館の都合上、ハーフ大会が多く開催され、プレイヤーのレベル別の大会が主な分け方なのですが、目的別というのは、次の2つです。

- ・楽しむバスケットをしたいのか？
- ・勝ちたいバスケットをしたいのか？

楽しむバスケットとは、仲間内で飲み会のネタになる為の大会になります。その為、みんなが活躍できるように、審判はゲームコントロールを重視しています。また、負けているチームが逆転できる仕組みやチームで盛り上がり楽しめる仕組み等の独自ルールを導入しています。

二つ目：「個人参加型のリーグ戦」

個人でもバスケットができる環境作りとまだチームに加盟していない人向けのリーグ戦になります。もちろん、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大会参加を自粛しているチームのメンバーが個人の意志で参加出来る仕組みでもあります。これにより、そのリーグ内にてチームを作ったり、所属しているチームに参加者を誘ったりすることができます。

2. スクールの開催 これには、次の3つがあります。

一つ目が初心者用大人スクール、二つ目が保護者の為の大人スクール、そして、三つ目がプレイヤーの為の審判スクールです。

会員だより

初心者用大人スクールの目的は、上手くなるというより、上手く見せるということになります。主に頭で考えるプレイヤーを目指してスクールを行なっています。

保護者の為の大人スクールでは、基本的に座学と体を動かすことが半々になります。目的は、お子さんの練習に付き添えるプレイヤーレベルと、お子さんの所属しているチームのコーチへの理解ができるバスケIQの向上を目指しています。

審判スクールは、チームに帯同審判がいないと出場できない地方大会もあるため、審判の育成を行なっています。公認審判資格保有者を講師に迎え、審判講習や審判からプレイヤーのどこを見ているのか？試合のどこに注目しているのかを講習しています

3. 練習会の開催

個人では体育館の団体登録等が難しいので、当団体で団体登録を行い、事前に参加者名簿を作成して体育館を利用しています。

基本はシューティングがメインですが、人数次第でゲームや講習を行っています。年間180日の体育館を確保することで3日に一度はバスケが出来る環境を提供しています。

日本でのバスケットボール環境

日本では、中学校、高等学校の体育の授業で1度はバスケットボールに触れ、かつ競技を行っている環境があります。そのためか、中学生、高校生の部活の参加生徒数は常に男子は3位、女子は2位と、共に上位にランクされています。

しかし、大学生、社会人の趣味としてバスケットボールをプレイしている人はスポーツ全体の18位（2019年）となっています。

その原因の一つとして私が感じるのは、学生（競技者）を辞めてからバスケットボールが出来る場所が少なく、環境も閉鎖的なことにあります。

特に問題なのが下記の3点です。

（1）専用競技場が無い

野球、サッカー、テニスは専用の競技場があるにも関わらず、バスケットボールの専用競技スペースは無く、地域の体育館を他のスポーツと共有しなければならない。

また、野外にバスケットボールのリング付きボードだけ設置しても、地面が砂利であるなど、環境がバスケットボール競技に適していない。

（2）地域総合型スポーツクラブのメニューにない

本来、地域のコミュニティーを行うはずの地域総合型スポーツクラブでは、フットサル、草野球、ミニバス等の競技種目はあるが、そもそもメニューに社会人の為のバスケットボール教室がない。

会員だより

(3) 既存チームへの合流が困難

チームを公表している既存チームを見つけることがまず大変で、かつ運良く見つけたとしてもメンバー募集を見ると、競技性が高いチーム（レベルが高いチーム）が多く、ブランク者、初心者など気軽に参加することが出来ない。

【私の経験では、インターハイ、インカレ等のバスケ成績（出身校）で参加を断られるケース、身長で断られるケースなど、あり】

私達「ACTIVEHOOP」は、競技者だった人たちは勿論、初心者の人たちにも、生涯スポーツとして、また趣味として永くバスケットボールに関わってほしいと考えています。そのためには、競技者以外のカテゴリー作成が必須と考えています。重要視しているのは、趣味を通じて仲間を作り、勝敗より仲間と楽しめること、そして気軽に参加出来るということです。



下記ホームページにアクセスし、アドバイスを頂けますと有難いです。

<https://activehoop.me>

(Activehoop 代表)

『 大会開催案内例 』

エンジョイ activehoop4Q(クォーター)大会 参加者募集

楽しみながら4Q で試合がしたいんです。点差が離れても大丈夫！救済処置あります。

●大会ルール

7 分クォーター。各チーム 2 試合保証

時間は流しで各クォーター最後の 30 秒は時間止め

フリースロー有り。タイムアウトあり各チーム各クォーター1 回ずつ利用可

女性 のポイント通常ポイントからプラス 1 点

お揃いのユニフォームが無くても大丈夫！各チーム専用のビブを用意します。

●参加チームレベル

月に 2 回程度の練習を行う初級者レベルチーム

●特殊ローカルルール

各クォーターの終了時に得点差が 20 点以上だった場合、

負けているチームは次のクォーターで得点が倍になります。

その他のルールは [ACTIVE HOOP 大会ルール](#)を採用します。

高校籠球ふるさと記（長野県編）＜改訂版＞

[事務局]

戦後の長野県バスケットボールの歴史を語る場合、先ず、最初に思い浮かぶのが戦後 10 年間の女子の輝かしい戦績である。1948 年福岡、49 年東京、51 年名古屋インターハイでの上田染谷丘高校の準優勝、1950～52 年全日本総合選手権での上田染谷丘クラブの 3 連覇、1950 年名古屋インターハイでの岡谷東高校の第 4 位、1951 年第 6 回国体での上田染谷丘高校の優勝、1952 年酒田インターハイでの岡谷東高校の優勝、1954 年秋田インターハイでの飯田風越高校の準優勝、同じく 1955 年神戸インターハイでの第 4 位等々、日本女子バスケットボール界の頂点に燦然と輝いていた。

これらは選手の頑張り、指導者の研鑽と努力の結果であるが、その蔭に新井文定氏を中心とした長野県バスケットボール協会の存在がある。戦後、他競技に先駆けて 1946 年 4 月に設立されたが、その歴史は 1928 年に長野商業 O B によって設立された「長野県バスケットボール協会」にまで遡る。当時、長野商業が県下の旧制中学校の王者として君臨し、1933 年の明治神宮体育大会では見事優勝を飾っている。その背景には、寒い信州という地域性から冬季に盛んに行われるといった特性もあったが、毎年、大学からコーチを招聘し、強化に努めるといった努力もあった。この長野商業 O B の尽力が戦後の長野県協会設立にも繋がっている。毎年春に、日本協会から講師を招いて技術指導会を開催したり、更には全国教員大会の地元開催、国際試合の招致、ラジオ・テレビ放映に尽力するといった形で具現化され、「普及」と「強化」が進んでいった。因みに、戦前に活躍した選手で記憶しておきたいのが、池上喜八郎。1936 年に旧制長野中学（現長野高校）を卒業、東京高師から東京文理大に進学、この間、選手として活躍、1942 年の東亜大会に日本代表で出場、戦後は新潟大学他で教授を務め、最後は上越教育大名誉教授。

さて、このような歴史と伝統を誇る長野県のバスケットボールであるが、本誌では 1947 年（昭和 22 年）から 1988 年（昭和 63 年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、長野県のバスケットボール界を通観してみたい。内容的には長野県バスケットボール協会設立 50 周年誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。なお、個人名は敬称略。女子は旧姓。（ ）内は選手の卒業学校名と西暦卒年、あるいはその後の進路先を示している。



協会設立 50 周年誌

先ずは、男子であるが、大きくは 5 つの期間に分けることが出来る。

第一期（1947 年～55 年）

松本深志、長野農業、長野、諏訪清陵、長野商業が競い合っていた時代。1951 年の名古屋インターハイでは長野が、1954 年の秋田インターハイでは松本深志がそれぞれベスト 8 入りしている。

この期間の著名選手としては、荒井洵哉（諏訪清陵 49－立教大－三井生命）、荒井利一（岡谷南 52－立教大－松下電器）の荒井兄弟がいる。兄の洵哉は 50 年の第一回アジア大会の日本代表、52 年の全日本総合選手権で優勝、54 年の第二回アジア大会の日本代表に選出されている。弟の利一は第二回アジア大会の日本代表、60 年のメルボルン五輪の日本代表に選出されている。

この期間、活躍した選手としては、細川（松本県ケ丘 50－東京教育大－京都府教員－大体系大教授）、両角（蓼科 50－日体大－日本学生連盟常任理事－成城大学教授）、直江（長野農 50－東京教育大－福島大学教授）、関（諏訪清陵 50－信州大－東京教育大編入－東京都教員－東京都協会理事長）、伊藤（諏訪清陵 50－早稲田大－同大学教授）、塩野入（屋代東 51－東京教育大－埼玉県教員－蓮田高校校長－埼玉県協会理事）、野々山（県ケ丘 52－東京教育大－埼玉県協会理事長）、伊藤（岩村田 52－明治大）、町田（長野農 52－日本大－三井生命）、松崎（岩村田 52－東京教育大－静岡県教員－静岡県協会副会長）、山崎（松本県ケ丘 53－信州大－長野県教員）、櫻井（長野 53－東京教育大－長野県教員）、原（長野 53－日体大－長野県教員）、伊東（松本深志 53－東京教育大－深志チーフコーチ）、笠原（岡谷南 53－順天堂大－同大学教授－千葉県協会理事）、茅野（伊那北 54－日体大－長野県教員）、御子柴（美須々ケ丘 54－日体大－東亜学園教員：60, 61 国体教員全国優勝メンバー）、小林（松本深志 55－慶応大）、相澤、立川、松倉、丸山（いずれも松本深志 55）、丸山（松本県ケ丘 56－芝浦工大）らがいる。

第二期（1956 年～65 年）

長野の強さが目立ち、長野商業がこれに次ぎ、62 年以降は松本深志が復活、長野吉田が台頭し始めた。長野が、1956 年の鳥取インターハイでベスト 8 入りしている。

この期間、活躍した選手としては、岡田（明治大）、高原（慶応大－住友金属）、山口、経田、大橋（中央大）、桑原（いずれも長野 57－）、峯村（上田 57－東京教育大－静岡大教授）、高藤（上田 58－東京教育大－日本鋼管）、藤沢（長野 58－東京教育大－長野県教員－信州大教授－副学長）、重田（臼田 58－日体大－栃木県教員[栃木工業高の黄金期を築く]－栃木県協会理事長）、唐木（伊那北 59－東京教育大－熊谷組一橋大教授）、小山（長野商業 60－明治大）、中沢（長野 61－信州大）、宮下（上田 61－中央大）、高橋（須坂商業 62－日体大－長野県教員－同監督）、角田（須坂 63－須坂東校コーチ・東泉クラブコーチ）、間（松本県ケ丘 63－芝浦工大）、宮本（更科農業 63－国士館大－長野県教員）、庭野（篠ノ井旭 63－日体大－大阪府教員－大阪府協会副理事長）、金井（松本深志 64－東京教育大）、太田（松本美須々ケ丘 64－順天堂大－福井県教員－福井県協会副会長）、西山（松商学園 64－専修大）、小口（長野 65－慶応大＜第二回関東大学トーナメントで優勝・最優秀選手＞－東京海上－日本協会評議員）、松岡（長野 65－学習院大－日本協会、理事・総務部長、事務局長）、柳沢（長野吉田 65－日大）、岡本（松本県ケ丘 65－中央大）、菊島（篠ノ井旭 65－明治大）、平林（長野商業 65－明治大）らがいる。

第三期（1966 年～74 年）

松本県ケ丘の強さが目立っている。そんな中、71, 72 年の屋代の県大会連続優勝は特筆できる。松本県ケ丘が 1966 年から 5 年連続インターハイに出場、1968 年の広島インターハイではベスト 8 入りしている。また 1970 年には北信越大会（長野、新潟、富山、石川、福井の 5 県）で優勝を飾っている。

この期間、活躍した選手としては、鎌倉（諏訪清陵 67－拓殖大）、下条（更科農業 67－

日体大―長野県教員)、福澤(須坂 67―日体大―長野県教員)、黒島(長野吉田 68―日体大―石川県教員)、高砂(松本県ケ丘 69―中央大)、夏目(旧姓竹岡・松本県ケ丘 69―日体大―長野県教員―長野県協会専務理事―日本協会理事)、長沢(長野中央 70―拓殖大―大和証券)、石渡(長野中央 70―拓殖大)、横山(上田 70―東京教育大―長野県教員)、庄司(諏訪清陵 70―東京教育大―長野県教員)、両角(諏訪清陵 70―東京経済大)、塩入(長野 70―信州大―長野県教員)、平林(松本県ケ丘 71―中央大―日立製作所)、真田(松本県ケ丘 71―東京教育大―長野県教員)、山岡(旧姓内藤・松本県ケ丘 71―日体大―大商学園教員)、池内(上田東 71―県協会事務局長)、手塚(屋代 72―信州大―長野県教員)、黒沢(上田 73―慶応大―東京海上)、藤松(松本美須々ケ丘 73―順天堂大)、滝沢(屋代 73―信州大―長野県教員)、高藤(上田東 73―京都産業大)、長田(諏訪清陵 74―筑波大)、中沢(長野吉田 74―京都産業大)、丸山(長野商 74―日本大)、植松(諏訪清陵 74―立教大)、降旗(松本県ケ丘 74―東京経済大)、土屋(上田 74―高崎経済大―長野県教員)、広田(長野日大 75―国士館大―市立船橋高校)、宮本(上田 75―慶応大)、中島(長野 77―成城大―日本重化)らがいる。

なお、この期間の長野県出身の著名選手としては、伊那市出身(1954年生)の北原憲彦がいる。伊那春富中学、明大中野高校から明治大学に進学、モントリオール五輪にも出場、日本鋼管でも活躍、南加州大に留学、現在は江戸川大学教授。

第四期(1975年～81年)

松本県ケ丘に加え、長野吉田が力をつけ、更に、東海大第三が台頭。三すくみの時代が到来。長野吉田が1981年川崎インターハイでベスト8入りしている。

この期間、活躍した選手としては北野(松本美須々ケ丘 77―筑波大―長野県教員―岡谷東高校、伊那北高校各校長)、北原(伊那北 77―順天堂大―長野県教員)、藤森(松本県ケ丘 79―中央大―丸紅)、伊藤(松本蟻ヶ崎 79―中央大―大和証券)、佐藤(長野吉田 79―日本大)、湯沢(飯田 79―慶応大)らがいる。

第五期(1982年～88年)

長野吉田と東海大第三の両雄拮抗時代。1984年の北信越大会では県大会2位の上田が、優勝を飾っている。

この期間、活躍した選手としては野口(東海大三 85―日体大―愛知機械)、武田(上田 85―大東文化大―アンフィニ東京)、吉川(長野吉田 86―順天堂大―長野県教員)、村田(長野吉田 87―中央大―豊田通商)、小沼(長野吉田 88―順天堂大―丸紅)らがいる。

次に女子であるが、大きくは5つの期間に分けることが出来る。

第一期(1947年～53年)

岡谷東と上田染谷丘の両雄拮抗時代。この間、岡谷東は50年名古屋インターハイで第4位、52年酒田インターハイでは優勝を飾っている。上田染谷丘も48年福岡、49年東京、51年名古屋インターハイで準優勝と、ともに全国トップレベルの戦績を収めている。

この期間の著名選手としては、小林豊子(岡谷東―日紡平野)、市村末子(岡谷東―興銀)がいる。ともに53年の第2回アジア大会の日本代表として活躍、優勝を飾っている。

この期間、活躍した選手としては、岡谷東では大野(48年の全日本総合選手権の優秀選手10人の1人)、小口(50年の第5回愛知国体でベスト4)、山田、古川(ともに東芝)、

御子柴（日紡平野）、栗田（52年の第7回福島国体で準優勝）、宮坂（興銀）、清水（東芝）、神尾、市村、小松（いずれも52年の酒田インターハイ優勝、全日本総合選手権3位）、桜井、滝沢、高山、（いずれも日紡平野）らがいる。

上田染谷丘では清住、南川（48年の全日本総合選手権の優秀選手10人の1人）、山口、池田、山岸、小川原、浦野（いずれも48年の第3回福岡国体、49年の第4回東京国体での準優勝組）、北沢、横山、滝澤（いずれも52卒で51年の名古屋インターハイ準優勝、第6回の福山国体での優勝組）らがいる。蟻ヶ崎では大谷、斉藤（ともに、日紡山崎）、山下（三井生命）、飯田風越では大平（日紡平野）らがいる。

第二期（1954年～59年）

前半は、飯田風越を岡谷東が追いかけて、後半は上田染谷丘を飯田風越が追いかける時代。飯田風越が54年秋田インターハイで準優勝、55年神戸インターハイでは第4位の戦績を収めている。上田染谷丘は59年熊本インターハイで第3位の成績を収めている。この期間、活躍した選手としては、飯田風越では54年の秋田インターハイ準優勝の久保田（東芝）、熊谷（興銀）、中島（三菱電機）、三村（日紡山崎ーヤシカ）、小木曾（日紡山崎）、岡谷東では高山、笠原（ともに大昭和製紙）、御子柴、桜井、三浦（いずれも日紡平野）、林（日紡山崎）、大平（東芝）、上田染谷丘では柳沢、柳沢、八杉（いずれも日紡平野）、倉科、山岸・熊沢（ともに東レ瀬田）、正村らがいる。

第三期（1960年～69年）

前半は、美須々ヶ丘を上田染谷丘と長野西が追いかける時代、中盤は蟻ヶ崎を上田染谷丘と長野西が追いかける時代、後半は蟻ヶ崎と美須々ヶ丘の拮抗時代。この間、県大会では蟻ヶ崎が5回、美須々ヶ丘が4回、上田染谷丘が1回優勝、長野西も優勝こそないが、準優勝4回と健闘している。この間、61年の青森インターハイで美須々ヶ丘が第4位、64年の静岡インターハイで長野西がベスト8、65年の長崎インターハイで蟻ヶ崎がベスト8、68年の広島インターハイでベスト4入りしている。上田染谷丘が62年第1回北信越高校選手権で優勝している。

この期間、活躍した選手としては、上田染谷丘では横山、美須々ヶ丘では星河、成合（ともに大昭和製紙）、高山（東レ瀬田）、菅沼、斉藤（ともに東芝）、尾谷（三井生命）、前田、高橋、増原、上内、奥原（広島県家庭婦人連盟理事長）、草間、中山、滝本（いずれも日本通運）、民谷（三井生命）、稲田（東京海上）、長野西では鈴木（三井生命ー日本家庭婦人連盟副会長ー日本協会理事）、永田（日レ宇治）、徳永（東レ瀬田）、蟻ヶ崎では、大沢（東レ瀬田）、土屋（興銀）、久保田（興銀）、丸山（三井生命）、上条（興銀）、赤羽（興銀）森下（東芝）、岡谷東では小林、山田（ともに安城短大）、篠ノ井では宮坂（日体大）らがいる。

第四期（1970年～77年）

前半は篠ノ井、蟻ヶ崎、須坂東の3すくみ。後半は飯田風越と蟻ヶ崎の拮抗時代。75年の東京インターハイで飯田風越が準優勝を飾り、76年春の高校選抜大会、夏の松本インターハイでそれぞれベスト8、秋の佐賀国体で第3位に入っている。篠ノ井が70年と73年の両年、北信越大会で優勝を飾っている。

この期間の著名選手としては青沼令子がいる。72年に長野清泉女学院卒業後、ユニチカ山崎に入社、日本代表のメンバーにも選ばれ、74年のアジア大会で金メダル、75年の世

界選手権で銀メダル、76年のモントリオール五輪にも出場。

もう一人、中川弘子がいる。76年に飯田風越（インターハイ準優勝）卒業後、第一勧業銀行に入社。日本リーグで活躍。79年の世界選手権、モスクワ五輪予選の日本代表。

この期間、活躍した選手としては、篠ノ井では北島、百瀬（ともに日通）、蟻ヶ崎では二村（日体大）、北沢（中京女子大）、輪湖（日体大―長野県教員）、飯田風越では蜂谷（興銀）、伊藤（日体大）、鎮西（筑波大―長野県教員）、染谷丘では久保田（東京女体大）、丸子実業では福島、桜井、芹沢（いずれも日立戸塚）、豊科では山下（東レ瀬田）、小穴（日立甲府）、伊那女子では中村（日立甲府）、諏訪実業では山田（日立甲府）、千曲では小林（日立甲府）、美須ヶ丘では村山（日女体大）らがいる。

第五期（1978年～88年）

前半は蟻ヶ崎、後半は豊科の時代。79年の全国選抜大会で蟻ヶ崎がベスト8、北信越大会で初優勝を飾っている。84年の秋田インターハイで蟻ヶ崎がベスト8。78年の北信越大会で諏訪実業が優勝を飾り、88年の北信越大会では、野沢南が優勝を飾っている。

この期間、活躍した選手としては、蟻ヶ崎では、木塚裕子（日立戸塚―日本代表メンバー）、豊科では、福田（愛知学泉大―日本電気）、竹田さゆり（筑波大―ユニバ代表―三井生命―長野県教員）、諏訪実業では大沢（東芝）、北沢（日立甲府）、野沢南では小林（第一勧業銀行）らがいる。

以上、高校時代に活躍した多くの選手が、各地の強豪大学チームに進学、あるいは日本リーグレベルの女子チームに就職し、チームの中堅選手として活躍している。県協会が昔から日本協会と人脈があったこと、上田染谷丘クラブや現役高校の全国レベルでの活躍があったこと、高校の指導者が、石川武（日体大）、笠原成元（筑波大）、尾崎正敏（ユニチカ）、島立登志和（日立甲府）、関口荘次（日本通運）、榎本日出夫（日立戸塚）、原田茂（東芝）といった日本を代表する指導者と出会ったことが、その背景にあると思われる。

<コーチ・指導者>

- ・ **森山 豊** 戦後、46年に岡谷東高校に復職、女子部を指導。50年のインターハイ4位、52年のインターハイ優勝、全日本総合選手権3位といった同校の輝かしい戦績の立役者。都会の選手に技では勝てないから体力で勝つしかないということで、当時まさに食糧難の時代であったが、選手に体力をつけさせるため、尽力。走り負けしないための練習前ランニングといった地味な練習を実践。宮坂（興銀）、神尾、市村、清水、小松らを擁して、インターハイ優勝や全日本総合選手権でベスト4に進出したが、その輝かしい戦績の立役者。また卒業後も実業団で活躍する多くの選手を育てた名伯楽でもある。研究熱心で関東の強いチームの新しいプレーを取り入れたり、関東大学の一流選手をコーチとして招く等、チーム力の向上に尽力した。
- ・ **鈴木武兵衛** 戦後すぐ、素人ながら監督として、長野高校男子部を指導、フットワークを練習の基礎に置き、徐々に力をつけ、51年の名古屋インターハイで同校をベスト8に導いた名将。
- ・ **小木曾龍夫** 49年に飯田風越高校に赴任、女子バスケット部を創設、75年まで指導。54年には関東大会で第2位。同年の県大会決勝では宿敵の岡谷東に1点差で辛勝、54年の秋田インターハイに初出場ながら準優勝を飾る。55年の神戸インターハイではベスト4、75年の北信越大会では鎮西と中川の活躍で初優勝、東京インターハイで準優勝

を飾るといった同校の素晴らしい戦績の立役者。また卒業後も実業団や大学で活躍する多くの選手を育てた名伯楽でもある。

- ・ **小宮山多賀文** 51年から上田染谷丘高校女子部を、数学を応用した理詰めのバスケット理論で指導、51年の名古屋インターハイで準優勝、国体優勝、59年の熊本インターハイで第3位、62年の第1回北信越大会でチームを優勝に導いた。生徒には一貫して「常に、初心に帰り、平常心を保つ」精神を養うよう指導、人間形成に重点を置き、学業とバスケットの両立を目標に生徒指導を行ってきた名将。自身は、46年に上田高女に赴任、陸上競技の県代表でもあったが、47年からはバスケット部を指導し、上記のような同校の輝かしい戦績、加えて卒業生からなる上田染谷丘クラブの全国3連覇(51、52、53)をもたらした。
- ・ **飯沼幸雄** 49年に松本深志高校卒業、信州大に進学。大学卒業後、望月高校を経て美須ヶ丘高校に赴任、女子部を指導。**One position three men** 戦法を考案、身長・体重ともに出場チームのなかで最少のチーム、美須ヶ丘高校を61年の青森インターハイでベスト4に導いた知将。米国親善使節のナットホルマンの教え「バスケットに、人生に、夢と詩を」をモットーとするロマンチストでもある。
- ・ **櫻井次郎** 53年に長野高校卒業、東京教育大に進学。在学時大学3年次から母校を熱血指導し、55年に県優勝、56年には高校は名古屋インターハイベスト8と輝かしい戦績を残し、同校黄金期の礎を築いた立役者。57年に母校に教師として赴任、その後、飯田高校、諏訪清陵でもチームの指導に当たった。
- ・ **山崎正治** 53年に松本県ヶ丘高校卒業、信州大に進学。大学卒業後、57年に蟻ヶ崎高校に赴任し、女子部を指導。森山、小木曾、小宮山、飯沼といった長野県が誇る高校女子チームの先輩指導者の胸を借り、加えて畑龍雄、吉井四郎といった日本を代表する指導者から学ぶことでチームを育て、65年の長崎インターハイではベスト8、68年の広島インターハイではベスト4にチームを導いた名将。
- ・ **茅野禎男** 54年に伊那北高校卒業、日体大に進学。大学卒業後、長野吉田高校を経て60年、松本県ヶ丘高校に赴任、それから10年間、同校男子部を指導、66年以降、15年間の同校の輝かしい戦績(県大会優勝8回、準優勝5回)の基礎を作った功労者。68年の広島インターハイでは、竹岡、高砂、内藤、平林といった選手の活躍でベスト8まで進出した。70年には長身の平林、リードガードでキャプテンの真田、シューターの内藤(現姓 山岡)を擁し、北信越大会で長野県勢として初優勝を飾った。県ヶ丘の先輩で当時、京都山城高校の指導者の細川や大学(日体大)の先輩で中大杉並高校の指導者の野口から「高校の指導者は、チームをインターハイに連れてこなければよい指導者にはなれない」とアドバイスされ、指導者として、一層の精進を図った。その後、71年から赴任の松本蟻ヶ崎高校では山崎正治の後を継いで女子部を15年間指導、同校の全国選抜大会、インターハイ、国体での輝かしい戦績の功労者。その後、東海大三高のコーチも務める。
- ・ **藤沢謙一郎** 58年に長野高校卒業、東京教育大に進学。同大学では、吉井四郎氏(東教大監督、東京オリンピックヘッドコーチの最後の門下生。62年に長野西高校に教員として赴任し、女子部を指導。セットプレーを重視、攻撃回数の少ない低得点ゲーム展開をチームづくりの基本とした64年の静岡インターハイではベスト8入りを果たした。その後信州大の教授、副学長を務めた。

- ・ **石坂喜久雄** 61年に屋代高校卒業、日体大に進学。在学時より当時無名の篠ノ井旭を指導して地区でベスト4。卒業後に県教員として各校を指導。1981年長野吉田を川崎インターハイでベスト8に導いた。
- ・ **長谷川孟三** 61年に長野吉田高校卒業、日体大に進学。65年に東海大第三高校（現東海大諏訪高校）に赴任、バスケットボール部を創設。以来同校のコーチ、監督として男女バスケットボール部を指導し、現在の全国的強豪校に育てあげる基を築いた。同校校長。東海大学望洋高校校長を歴任した。

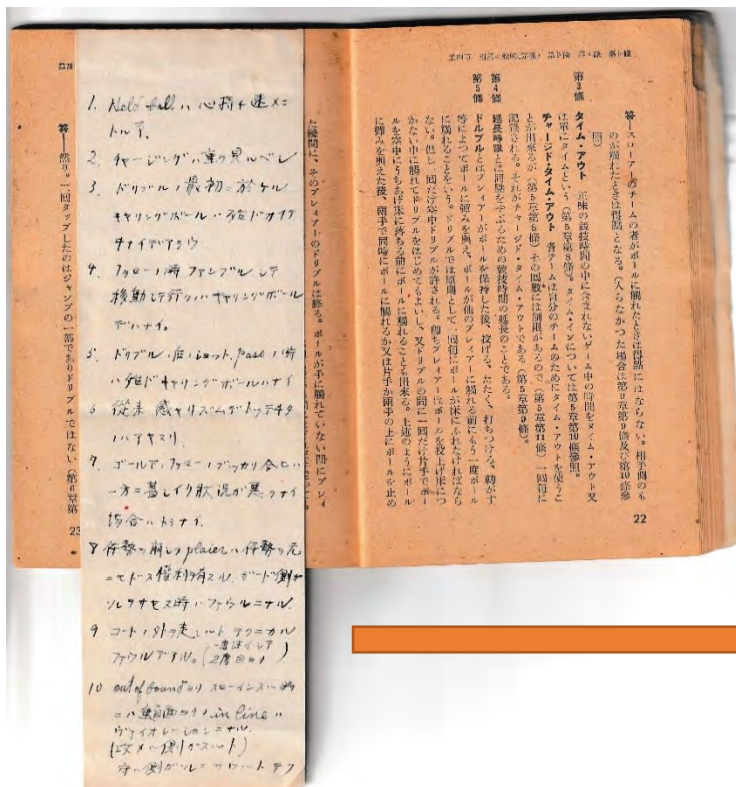
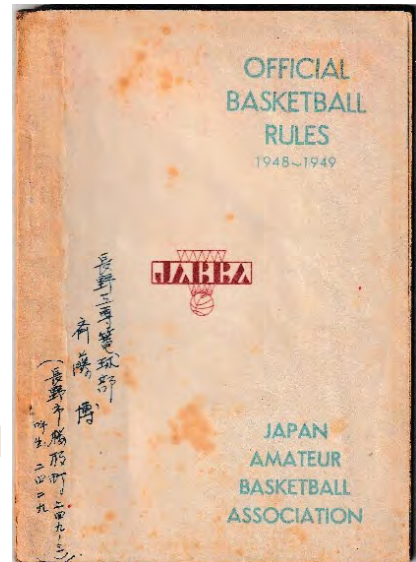
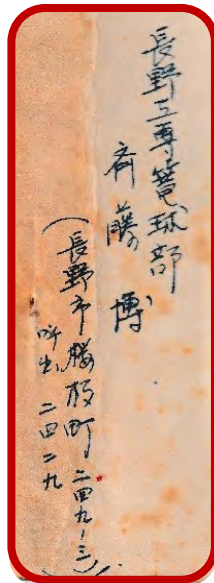
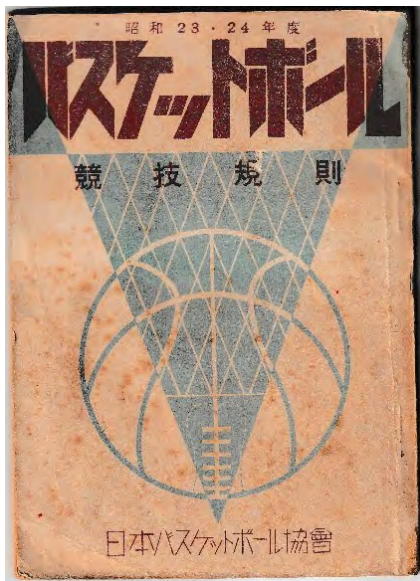
因みに長野県高校は、下記のような、**細川 磐、島立登志和、笠原嘉介、山岡（旧姓内藤）秀雄、丸山健治**といった全国レベルの指導者も輩出している。

- ・ **細川 磐** 1931年生まれ。長野県立松本県が丘高校－東京教育大卒業後1945年に京都府立山城高校に赴任、小森と二人三脚でオールコートプレスディフェンスを確立。1967年に大阪体育大教授に転出するまで男子をインターハイ優勝1回、国体優勝2回に導く輝かしい戦績を残した。
- ・ **島立登志和** 1931年生まれ。長野県立岡谷工業高校－山梨大学卒業後、東京都大田区の中学校で教鞭をとっていたが、その後、山梨県へ移り、68日立甲府 女子チームの創設に関わった。監督・コーチとして「ディフェンスを最重視することが勝利への道」という信念のもと、同チームを、日本リーグ1部にまで昇格させた。2001年にはクラブチームとしてスタートの山梨クインビーズの代表理事に就任、2013年引退まで同チームを指導。
- ・ **笠原嘉介** 1934年生まれ。岡谷南高校－順天堂大卒業後、同大学のコーチ、監督、部長を務め、同大学のバスケット部の強化に多大な貢献をした。
- ・ **山岡（旧姓内藤）秀雄** 1953年生まれ。松本県ヶ丘高校－日体大卒業後、大阪商業（その後大商学園に校名変更）に赴任、同校を94年インターハイ第3位、同じく同年の全国選抜大会で優勝に導いた名将。現在大阪府バスケットボール協会会長。
- ・ **丸山健治** 1955年生まれ。松商学園高校－大阪商業大卒業後、東大阪市内の公立中学に赴任、その後、奈良県立奈良商業高校に転任。バスケットボールのコーチとしては大阪樟蔭女子大学のヘッドコーチ、大阪商業大学のコーチ、荏原製作所のヘッドコーチも歴任。学生オールスター西軍男子チームのコーチも歴任。その後は、講演活動にも注力、岡山県教育委員会、石川県教育委員会、大阪府教育委員会、東大阪市教育局等で講演。大阪府バスケットボール協会理事も歴任

<審判員>

- ・ **斎藤 博** 1947年に旧制長野中学（後の長野高校）卒業後、旧制長野高専（現信州大工学部）に進学。この頃から審判員としての研鑽を重ねる。初代長野県審判委員長。国際公認審判員。
- ・ **小林信夫** 1957年に国際公認審判員資格を取得、長野県の審判員のリーダーとして審判のレベルアップに貢献。長野農業高校（後の長野吉田高校）出身。

日本に於ける戦後初の「ルールブック」
(斎藤博氏が精読し研鑽に努めたもの)



1. Melo ball は心持+速×=トルテ.
2. チャーレンジは重く見れば
3. ドリブル、最初=於ケル
キヤリングボールは予てトカテ
チタイテアラウ
4. フロー1時 フェアフルレシテ
移動行行ハキヤリングボール
デハナイ。
5. ドリブル、1回1ショット、pass 1時
ハゲドキヤリングボールハタイ
6. 従来 感ヤリスムデトツテタ
ハヤヤリ。
7. ゴール下、フロー1ブツカリ合ロハ
一方=著しく状況が悪クタイ
場合ハトナイ。
8. 存勢、前シplayerハ存勢元
=メトス権利ヲ有スル、ガード側ガ
ソルサセヌ時ハ、フルルニナル。
9. コト、外ヲ走、ハトタク=カル
フルルデアル。(2度目ニ)
10. out of bound ヲリ スローインスル時
=ハ重面コリ、in line 〃
ウツイオレシニナル。
(改メハ後リカスル)

<協会関係者>

- ・小坂善太郎会長・新井文定理事長 1946～1973 年
- ・小池善治会長・中島良夫理事長 1974～1975 年
- ・笠原正文会長・中島良夫理事長 1976～1977 年
- ・新井文定会長・中島良夫理事長 1978～1983 年
- ・新井文定会長・小林信夫理事長 1984～1985 年
- ・新井文定会長・保坂憲男理事長 1986～1989 年

本稿の対象期間（1947 年から 88 年）で多くの方々が役員を務めておられる。在任期間は様々であるが、皆さんに共通して言えることは自らが育った長野の地を愛し、長野のバスケット振興に並々ならぬ情熱を注ぎ、成果を上げ、貢献されてきたことである。本来であれば、個別に紹介すべきところではあるが、代表して下記 3 名の方を、簡単に紹介させて頂く。

- ・**新井文定** 33 年に長野商業卒業、家業の書籍店を営む傍ら、母校バスケット部のコーチとして後輩の指導にあたり、この間、全国大会準優勝の快挙を成し遂げた。また、優秀な選手や指導者も育成し、長野県のバスケットの普及と振興に努めた。戦後も 46 年から 73 年まで理事長、78 年から 89 年まで県協会会長として普及発展と競技力の向上に注力し、長野県バスケットの基礎を築き上げた。戦後 10 年間の女子の活躍の蔭には同氏を中心とする長野県協会の支援があった。又、中央との深い連携も進め、日本バスケットボール協会の理事や評議員として日本のバスケットの発展のために尽力。これら一連の業績に対し、81 年には文部大臣より、体育功労者表彰を受ける。中央との繋がりという意味では、親交のある日本協会の長老である鹿子木健日子氏を県協会の顧問に迎え入れた。
- ・**堀内寛一** 旧制須坂中学から日本体操学校（現在の日体大）に進学、小・中の教員（この間軍歴 2 回）を経て戦後 46 年に教職を退き、長野に戻りレストラン開業。その傍ら、長野清泉女学院を 26 年間コーチ・指導し、青沼令子らを育てた。この間、クラブチームや国体チームの監督も務めた。その後のエムケー精工社長からの依頼で同社女子チームづくりにも協力。県協会副会長を歴任。指導歴 50 年を超える知将で、長野県バスケットボールの歴史の生き字引的存在。日本協会から「84 年度功労表彰」を受ける。
- ・**荒井邦夫** 上田高校 63 年卒、大学卒業後、長野県協会に奉職、1996 年には理事長として 50 周年記念事業を成功させる等、協会の発展に多大な貢献をした。2000 年から副会長、2017 年からは会長を務める。日本協会評議員を歴任。

<日本協会 関係者>

因みに、長年、日本協会の運営に貢献した長野県出身者に**松岡憲四郎**がいる。

- ・**松岡憲四郎** 長野高校の黄金期最後の選手として活躍、65 年に同校を卒業し、学習院大に進学。80 年からは、同大学の男女チームのコーチ・監督を務め、更に関東女子学連、日本学連の要職を務めた後、1999 年からは日本協会の理事・総務部長、2004 年から 8 年間は事務局長として当時の石川専務理事や木内専務理事をサポートした。その一方で松岡は、79 年に男子の第一、二、三期に活躍が目立った長野、上田、松本深志、諏訪清陵の四校のバスケット部 O B の定期戦を企画し、現在まで 40 年間以上続くユニークな活動のきっかけ作りも行った。

- ・2014年までの約6年間、荒井（上田 63）、北澤（長野 64）、小口（長野 65）が、日本バスケットボール協会推薦の日本協会評議員として、協会運営に参画している。

さて、長野県のバスケットボールを語る場合、忘れてはならないのが、教員チームの存在である。

ー長野県教員チーム 「地域や県のレベルを上げるには指導者である教員のレベルアップが必要」との信念から全国教員連盟を組織した静岡高校の馬渡猛（戦後すぐに長野青年師範学校に赴任）の働きかけもあり、1962年には長野県協会が中心となって全国教員大会を長野市で開催、73年には茅野禎男が中心となって県教員バスケットボール連盟が発足。強化のため、毎年、日体大の石川武らを講師として招聘、その努力が実り、男子チームが83年と87年には優勝を飾っている。教員もそれぞれのチームに戻ればライバル同士になるが、教員大会での切磋琢磨、縦・横の繋がりや結束が、長野県全体のレベルの向上に繋がっており、その指導を受けた生徒たちが、やがて教員となって地元に戻り、子供たちを指導するといった好ましい循環も出来上がっている。

編集後記

今回、本稿をまとめるにあたり、長野県バスケットボール協会専務理事の夏目敏氏、長野県出身のバスケットボール資料収集家の堀内秀紀氏、同じく長野高校OBで元日本協会理事、事務局長の松岡憲四郎氏には、資料提供や情報整理で大変お世話になった。誌面を借りて謝意を表したい。

事務局だより

[事務局]

◇ 感染防止の対応

コロナ禍が続く状況で各種の大会に感染防止の対応が求められています。緊急事態宣言が延長されたことにより、不要不急の外出を控え、社会の経済活動も抑制されています。シニア世代にも自粛疲れの影響が出ているのではないのでしょうか。フレイル防止のために、活動・運動も必要です。コロナ感染が収束の方向に進み、各地のシニアの皆さんの大会・活動が早く再開できるように望みたいものです。振興会の活動も当面、火曜日のみ、事務所で仕事をしています。

◇ 「企業価値認定証」の表彰式にリモートにより参加

2月8日、振興会の事務所で、一般社団法人企業価値研究会から、バスケット界の交流、機関誌の発行、地域貢献、歴史的資料の整備など振興会の活動が「社会的価値」があるとして認定され、表彰されました。この度の表彰は、前回に続いて2度目で「星」を一ついただきました。3年で1回、継続・認定されるもので、さらに「星」をもらえるように努力します。

◇ 会員・部員の募集

皆様の周囲の方々を振興会会員にお誘いいただきたくお願いします。振興会紹介パンフレットはホームページから得られます。もしくは、事務所にお問い合わせください。会員の方、振興会の仕事にご参加下さい。ご自分で新しい仕事をされても結構です。できれば何かの仕事に必要な知識をお持ち、パソコン操作が得意、などの方は歓迎です。手持ち無沙汰な方は事務所までお声かけください。事務局では大歓迎です。

◇ 会費納入のお願い 会費未納の方をお願いします。

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行 00100-3-316035
NPO法人日本バスケットボール振興会

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通預金口座 1684743
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行 丸の内中央支店 普通預金口座 1004687
特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ こぼればなし

- ◇ 天皇杯・皇后杯、全日本バスケットボール選手権大会では毎年新年が明けて男子・女子同時に開催され、決勝が同一コートで連続して開催されるのが恒例であった。他のスポーツでも男女同時開催の必然性はなく、多くの種目で別日程であるが、本年度の全日本バスケットは、女子の12月に対し、男子は翌年の3月、それも年度末である。代々木の体育館で連日戦い、男子・女子の決勝戦を最終の同一日に開催してほしいと願うのは、私だけであろうか。

- ◇ 「FIBAアジアカップ2021予選」、2月17日からカタール・ドーハで開催する予定の全試合が新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響によりカタール政府からの指示を受けて中止となったと、JBAが2月12日に発表した。FIBAからの通知であるが、日程等の詳細は発表されていない。

男子日本代表が属するグループBの最初の日程は下記のとおりで、1試合のみが実施されている。残り全試合をドーハで開催の予定であった。

ウィンドウ	開催日		相手チーム	開催地		日本の成績
第1	2020年	2月21日（金）	中国	日本		
		2月24日（月）	*タイペイ	台湾	#（台北）	○ 96-57
第2	2020年	11月26日（木）	マレーシア	マレーシア		
		11月29日（日）	中国	中国		
第3	2021年	2月19日（金）	*タイペイ	日本		
		2月22日（月）	マレーシア	日本		

開催地の空欄は未定 #（台北）＝ 台北和平バスケットボールジムナジウム

- ◇ 「熱血バスケ」がNHKテレビBS1で毎週月曜日に放映されているが、解説者の佐々木クリスの語り調がなかなか良い。

主としてBリーグが主題となることはやむを得ないが、高校生の大会やその時々のバスケットボール界の注目すべき話題もあって、解説者のバスケットボールへの研究と熱情には頭が下がる。これからも長く続けてもらいたいもの。

- ◇ 日本バスケットボール協会（JBA）は、男女日本代表（5人制、3×3）戦、全日本選手権（天皇杯・皇后杯）、ウィンターカップ（U18）、全国U15選手権、全国ミニなどの大会を主催している。一方、Bリーグのクラブがアンダーカテゴリー（U18、U15）のクラブチームを保有する構想もあり、インターハイ・ウィンターカップといった学校体育に根付いたバスケットも他のスポーツ種目同様、チームの頂点を目指す大会の改革と加えて、高体連・中体連の組織との調整が早晚必要になるであろう。

（2021年2月に発行された「プラザ89号」の内容を改訂）

N P O 法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-40
豊明ビル 301号室
電話／F A X (03) 3219-9311
メール contact@jbbs.jp
